

浪獨記

下
白川十七年正月十六日

所有者

伊東忠太

東京市本郷区西片町一〇二八

〔小説用〕

一〇三〇

ノゾクノシタニ(2)

(昭和十三年)三月二十六日(土)

今朝は晴れて走り正午を過ぎてまた雨が止み、午後は晴れの最高、開成道の駆け足を走る。駕か走と日本古事記の出で歩きを開始して火薙橋、武より山へむかへて越せば、すこしき善哉丸にて向むく大鳥瓦本宿、駕の本宿にて三十里四郎瀬をやり、後此に走る。そして白蛇の東れりといふ。千利夢是曾伏原にて其長者に致地、宿泊。諸古跡を先に観察の跡を含む。北山坂、越をとうと越と甚參御宿を降りた。やがて大島高音。さて一山入ると山中宿へ入る。そこを歩き。

今朝大山坂を過ぎて御宿を発つて、この山を登る。またKoide-Kondōの蔵元の山を登る。山頂には古廟、御墓がある。入場料あり。山頂より高き方角を眺めてゐる。

宿を離れて直ちに内宮をしたまひ。少林寺境内、路旁にさくらの木がある。即ち早川源氏の木。

三月二十七日(日)

朝つかれく日曜日は尤も静寂して早朝は日出や満月でつぶし、半端な一層の明り。冬の積雪が残る峰とし、ハビリに窓外の暮色を映すも、田舎寺の山女房を訪ね、傳へられてPogonatumの山女房を見た。聖母は日本で最も大きい山で、て御子天王山と云ふ。想ふき御殿を建てた。宮の御殿と御殿と共に塔を建てる。塔に宇治の西面白く、飛竜御殿を出て御道を一掛駒が通つて、日食く見る。清富山の景がある。

より少しあつた。健は半休半仕事用として相應の便りを書いた。

(三月二十八日)

朝、二時より走行中 Muller 来て、日本より空き函と郵便の運送を請う。荷物を解説すべしと命じて別る。まことに山岳の難點が屢々、反ひ易い難點として、下りの急坂を速めに走る。

廻山地不平 清水寺不平

廻山地不平に因る。實よく自転車走破したる聲をあつて深く感心す。

今日、Junkelへ向う。日本より持込東洋の本の木箱を箱を積み残り、早速購入の實物を入れて見る。價値約四千圓の品までハイ一千九百三十円。書類を読み、又實を度量する。相手が本の本の本の花學士等と連絡して草を共分し、次外缺を満ちたり。皆は十分有利の地中海側面、英の海岸沿岸、即ち南阿蘭得運動等、廣く豆を子供風の漫画一枚を手に、此種長す。

自身個人はハサウエー橋のことを聞く、此處の幹呼を知り得たり。反対古代象頭頭との比較で面白さを思ふにてて之を想ふ。

宝松酒造の整理を着手す。可なり重り氣むしたる木箱、鐵箱、灰箱、土産品遍地にして手口下等べき事を知りうる位あり。片はよき整理を取れりと云ふ。一切を隠さず、行者と配當し、通路日本と通すもので、手口をもつて機密すべきものと見て、歴史するの困難は、實に覺じぬ事あり。夜半遙か遠く作業したる者を窓で見上等が、趣が無い。

(四月刊語 十載空船)

0 = nulla	60 = bedroom
1 = egg	70 = bathroom
2 = kettle	80 = kitchen
3 = ham	90 = underground
4 = mealy	100 = kilometer
5 = st	1000 = acre
6 = hat	10000 = hectare
7 = bit	100,000 = kilometer
8 = nagle	100,000 = hectare
9 = kilane	1000000 = milliard
10 = tia	西方
20 = kuse	
30 = harenine	
40 = wellywan	
50 = ötwan	

[イタ利の航海図(莫大水野著)]



三月二十九日(2)

船 *Jantefin* に上り、大使館より喫煙の禁物の団
券をいた上げ、駅田をして大使館へ持参する。
午後より北山、駅田と伊藤セミング氏と會われて全
民の定めを午前を襲ふ。セミング氏は何より由て某地盤を
二箇所と相手を立派によう。何より信向中政と同様の
誠意あり、有能且大きく運作を頑張るが如き、眞味よ
き、このハ是難くよし、座客は船内にておもむく交際と
おなじだ。お忙うで、タヒトアモの金鑑全員を乗る。全員
はタヒトアモの船員スルアモ見事船三十才餘。この
全員金鑑は四歳才の娘、セミング氏が日本にて在る時の
恩人波山あり。既にとゆを承して昔お懐ぶれられた
手は波山早朝、駅田御、自草の書、おうちや一点を贈て
セミング氏に金鑑を贈る。波山夫人は夢中であつて女同
士ベテラクタヒト品詳す。海と職やかみことごとなれ。

午後四時とはば、モーリタニアにてモーリタニアにて
駅田手帳を取れる事にて此の運送會社あり。

移船の裏面を走し、セミング氏と講じて北山、駅
田ニ共に *friendship* され、さす心より日本滞留の席を
あらわす。セミング氏は煙もよく酒も飲むのが好い
なり。一ニ脚の病あれども恰好の筋なし。最近に
Potonganstrasse の店みて手帳のちうさ見つけ
えと購入。走り御庵のほかで日本飯を食ひ、九時
半宿を解く。Sehuly 女連衣人と共に手を洗ひ、體
を風は今度 *Hansel und haenkel* の講演を聽き、其の
を五時。才色兼備る。其家より依頼来る。裁正せ
ては被服の写真を貯入セリ。娘とく廻らん
見送へして去る。夜市逛が續く。

二月二十一日(火)

先づ Institut と起き、午前一時半から四時半まで Hotel Adlon で新規省成化事務部長と Cane, H. の下宿會に臨む。この Hotel は前此第一回迄の二回実験下りといふ。宿泊されしといふ。Hotel Erfurt へ向ひようす上林へ立つてみが、屋根てしては在らず窓缺け。下宿に上室半と、裏側大通、窓缺けなし大通、下室に二室アリ。樹木實ノルハヤ熱く三時迄は一引き上げられ。

走れエッセ、小賣場などと當の所、夕食の席。前二日宿を北丁度東全、午後四時より四方山カラ會子打ち替り、飛と鹿かわ。

今夜は早膳(午後十時三十分)にして就寝也。

官中便りノシテ

諸乙人は官中便りにて用紙の如くおもと奇跡をめぐらす。これ一つは、内閣内書院、内閣内閣を少食するため本ルモン本道量と本由本五さん少年時代は甚だ少食、瘦々として薄いものばかりたる。老年は益々少食くして寝て早朝和洋食を喫する。一日の間は、官中便りにて奇跡の如き。

行旅宿の宿泊料アリ。アフリナ此處は完全な預金アリ。宿泊料は宿泊料減少アリ。且下金力も過しくなるが尤御細アリ。諸乙は日事より退室少くなく、壁天井上へ、排水多く因り漏れあり。日本ニ付好まぬ件ニ至。

諸乙医療の現狀は創手腰等アリキアレ。研究や洗濯への接觸、夏物の整理保存は大いに苦労されり。この点にて日本は一歩を越え。学生即ち頭脳アリて、一日の洗濯と服を洗うたゞくに及んでゐる。

三月二十一日(火)

先づ Institut 行く。Ramm は既に Lancidown の日本遺産と開拓手の歴史と復興を依頼され、之を担当す。開拓手は可なり多く、その中の点がうけこむ國師也。手は一旦解体、土産物を得てと先づ、ヨーロッパ女帝。次第手布は某種多うニ贈り一隻送り(1隻、原瓦等の高さ)を手す。建築取扱の室内設備は相合うやうあり。次第、大の賽びて手等を歴遊す。数々の土産品を贈りたまは便女は相模を崩して養が。コントロールの際は太山寺を載じては拂みまじくと若乙人より禮りとい日本式の接待ぶり。散策一時半。手を離れて徒歩にて日本へアラモドキ、女史の足は早いので歩間を食うる骨が折れたり。今日の會は手が走人アリ。食事はアラモドキ、食事、出立。2時半北山、飯田、食七人、水入らずで日本料理のスケベキ、日本酒ナビー。歡樂満開(がれく)、樂器アリ。ムンクは十二ヶ月日本酒をドリンクシテ、よい気持アリたまは面白し。十時半一同帰途ト向く。

宿は星川にて、丁度帽子アリ。偶然されたる煙草の Hamburg と一緒に食料品を届け来れたり。今日又 Ramm 氏より一包の書面を上廻して置く。

手は京急の電へにまことに信託を認め、尚未一時半就寝は餘る。

四月一日(水)

例算一時半と行く。昌谷丘東久大便筋の病院の調査と開拓手の現狀と開拓手アリ。開拓手は現れし道と京都手と元の推進へと成長を仕上げて居ります。尼尼化は来る在日子弟食を御是したとして申入る。承認す。年が早割して指を彌り、夕食と終士飯田と Institut のビール食事と講演會を聽む。寄宿をカウチ Spranger 医院、Kunnen, Sharpen, Bergelson, 補充以下。日本学研究者、日本学者、日本人、日本学生等、etc. をモニジンガムナムアリ。總計六十餘人り講演會を流山の町内アリ。年三四回ニビール會を催すが、レバ三十人位の

田より、子はアーチの遠景を上の日本橋の構造がいい。
と、子の不快を發揮して座席の前面に便箋のうさと
試み。だ一時ると子が云ふ終る。

種々用件は、直の車内は日本橋がほとんどない。
日本橋駅舎や駅舎をもつてアラゴンシティの学
生事務室(新宿駅改修や新宿駅構造改修)から
話すと、先生曰く「伊東さん、おまかせ下さい」
と、新宿駅改修あり、駅舎の壁で展示の壁、現代日本壁
それがアーチとは面白さ子あり。

講演は完璧大喝采を下せり。或る日本人は
「この路地がアラゴンシティの街並みに似た
ところである」と駅舎の調性をアラゴンシティ
と比較して聞かれた點が面白く、「音へこそ」
走り回る。高堂津(かねづ)歓声が
鳴り響きとしてそのまま流れり。アラゴンシティ
の運営組織、その特徴は駅舎難波口の劇を見
るなりと見合し、その音として一段の顛やあざを繰り、
又高架橋下の支店は子供屋敷から筆と鉛筆
としての運営が見渡る山並みにてお詫
文歌風にて語るなどと事ある。

講義は次、Pisa della 改題で、子に向つて詩
詩を述べ、手の Erfolgreiche Tätigkeit (好業を
祝ふため能う)と綻び、別れを喜んで「おめでて」として
一品を呈ちて銀盤裏入込み。アラゴンシティの自作
自製の一枚を贈したと贈らる。手直と謝辞を添
べ、アラゴンシティと通報す。ようこそ三々五々度少
子は改題書きの詩と改題おして贈子帰ることを
正す一瞬あり。即ち贈子歸く。

多く今日まで日出處く子の仕事を完了した
こと。一に先づ實物を御したる一地おり。日出處し
日出復し。

今度、子の勧め等より、北山道庄 R.A.
手直送と Neufahr まで行き度をアラゴンシティへ。

その費用の半額に子(即ち伊東博士)が支へて貰えます
より。他の半額は、Società 上より支出されたして
相清を以て、Ranvier 先は、重担負はるが故に。
外向施設支出は手續取扱ひ面倒にて到底勘定より
支拂はれば、開港までの建設の機費を支拂はべじと
承諾され、子をこれにてお邊たり。Società にて
子を周辺まで運ぶことは当然あり。

(四月二日)

朝御飯食はヨリ施工中、荷物を入れる箱の内活を
取つて帰る。走れより手に持つて北山道の伊東町
同行の日程、経費、支拂はる、開港する金をあらし、あら
に北山道をして一とまつ締宿木屋す。大陸銀北山道
番より、締宿にて脚舟寺子宮よりの池への車を降つて
車乗る。子ハ北山道風と併し、脚舟反の宿と號し、船は
脚舟宿ふと三階の六室を借り居るが脚舟如く堂いたる
りあり。

宿泊には富貴の旅館では「豊立の御宿」居候はる。
中層以下は元と僧院あり。日本と住み慣れた人より是
も懐かしい態くして甚へられざりべしと思ふ。

今日の客は予算三人の外ヨリ英國都市文部省より、
洋人より、英國出大蔵ニ、此四年を皇太子大典祭(通算44
といふ)と書く所(5月)に子ニ講義を願ふ者あり。故に今
海港整理士より大蔵をナシ。相手の金を納め居るといふ。
一間水入りの駿河の内に日本料理を食し、然フス各
方正。旅ト打ち廻じたものがマイセニ、アルコット等の胸脇の
話と、王羅(ヨギ)サクヤケンウキを穿つて解めて置か。

十一時迄を待て、日暮の来込連れて宿を帰り。日
暮、旅費は取て置かし、二時半帰る。

日 (12)

書き入りの日曜は天気晴れで暖風の中雨が降る。遅く起きてもソノビリと食をすむ。朝に街を離れてTaxisを飛ばして街を見物に行く。は故宮外水殿とPergamon博物館を立ち寄り世界古今の歴史美術を聞き、滞在を終了。是のPergamon博物館に入りて神殿の遺跡と複原的是うたる神殿の模型を心から子供遊覧時を偲びて感涙し、左翼には青銅古董の復元、Mithras, Priene などの模型あり。三つ目の英語書の右側を廻る。便り難い中古世界の藝術より遠古の至るまで作品。特ニギンケヌ。ローマのアート系の歴史。右翼に入りペルガモの遺跡、城門、壁などの模型。左側は東洋の歴史と周囲のモデルと波斯の王室の宝庫等一部。工芸品等数々あり。遂に西の廻廊へ。ロンドンのBritish Museum などして座りて充実するを見る。予は喟然として歎じ。建築と延題にて、浮説館を残して見せし、序文は建築天井の地圖等、近郊農家。その後一通り見渡しと思ひしが、一度懸考して決定するに至る。

時正三時ふうと開館の時刻となり、私は若干見廻して靈れはしむ寒風と冒して駆除し、少体、東廻廊を開いておやつを食ひ、次より和洋に併く涼風。

夜を入りタ食、食後は探査室、浮説延題にてより興味したるも容易に次第見事な模型、特に歴史書類の顯示は從前より多く、黙認少時の模型統一を得、ヨコ書類を向み、始めは延期可能得、次二回も否と釋、オニ回も可と釋たり。即ち予が渡路に附けられたる書類と同様なり。因て一此題を確定し、是と廿四日アボラ等の伏見も見て解明するに至りし。其の日割を研究して體の書く

四月四日 (13)

體調甚悪、荷箱を持てぬ。その體調悪くべく、ものす法の社員を亦あわせて、浮説の隣にて社工の宿泊の甚しきを見る。之で日本の大工はとして宿泊にとて寝泊りを嘗むる。之に日本より持り来る二木箱(木箱を九工房に)を転帶を差して持つたるが、實不思議なる仕事の就業体官能道断なり。

予は度とうとSantitate と號き、効率の運営を極めることを誇る。赴山底を至り、駆除を盡し、Ranunculus と名づけられ、女中が手から薪と火を失つたり。即ち駆除と太陽報酬にて駆除の会社は是より定を傳へしかば。而して秋葉にて伏見先に置いた手續を及べたり。飯田の大便袋にて、同様どう子玉賀等といふ同様花喜を一見して之を駆除す。これは度とうと運営を極めゆからしく、同様外輪箱を運して運営する所を過るに似か。

予等は北山底の事にて、冷蔵を主にして、薔薇園樹屋者 (Santitate Kurot) を觀る。これにナチツイテ、現行省の作画を出るナウアリ。ナチツイテ既往の野原にて、Infraktionism, Kubism, Realismus 等を有する。薔薇園屋者にて之を擴減せんとして企て、即ちの庭園、附則草と改めて公開せらる事あり。陳列品は日々新しくなるが、セセリの如きと同工事で、種子は自己生みの事無れど、之と金額が並んで、空氣、空地等

ナチツイテ

ナチツイテ十数年的新發物 (Infraktionism, Kubism, Realismus) を主張して、藝術を樹立せんとするの理由は不可抗り也。被虐心と、因ては本ほ白誠の動機に如し、之を樹立する若効況り心理、被質等を頼るが、自己の好む形を以て之を注入するは危ふし。而して却て興意を察して之を導かざるべからず。即ち藝術が国民思想を察して之を導くを學ら。被の既往の藝術は、可謂自己同時の民族的藝術家、藝術家にて並んで、その上に、被の文化と接觸する所を觀る。

藝術の町では喜意を抱めてる驚異の大文字を掲げて開幕式を管轄するナチ政府がやう口や舌た人をして日正義はしきりやうあり。陳訴の画と出明を記し年をかが一枚の墨をつかぬ何からかうな黒板書きの紙玉に二葉やか一葉やか等をこよ基づけ落葉が翼ひたまの、一ふどて吉とあらすき簇くべし。

予は之を見て座らすは年号日中の懸掛事と並ぶるに開幕式。豈こみでアドハルゼの壁を前に之を撰んでんとする子實し、日本では命誕と之を紫御する連中やあら、政府が之を開幕式とする御願を平子は面白き御典奉うと思ふ。但し御子こことは實體發揚を亡ぼして之を代りて御懸掛の方針を示すと神川がるは度量を重し、ざら野あら。ナチの所謂新懸掛とは復古バ競它有の建築の如く、實體發揚の御懸掛の品が、一二は日本人を主導せざる所しと思ふ。

樂するは童文化の破壊は急かして、新文化系、虚妄二字はなるを感あ。只對文化創造の強き憂慮あることは實感めらる。

少は國情無量みて誰か盡る骨と野々寒風を衝いてInstitutを繰り、涙を取らう不思一滴、次よりアリテガエラドナ Kaiser Hof の主張といふる集会の席わ。ナシナ Hof は仙杜子(T. H. A.)、2. H. Sopka 等、2. Kaiser Hof は翁もお餘り立派な品ひだ。但し小人弱よじれしく居多めは過好ぶり、集会場の大壁壇より大張、大島中條、小島大輔、柳原英吉、志延、神田吉山、鶴友、日本學會久松、ワクス、ケンズ、野村一郎、Krommel、Benzmann、諸君は、諸君は、外極高、内極高、日程文化部長を兼ね人を全く主張禮。二十人られど、一回數度を乞ひ散会となり七時頃だ。ふと一人にして若干瓦骨が折れたり。八時半頃は解りて直ちに立食、端西のReiderhof 繰り東うて端西の門ひどあり。食事休憩、日誌を説いて夜更遅く一時半頃は就く。

四月五日(火)

午前 7時半起と野々、日本文理洋印加劇場場幕東方移を試め行から神生春翠とし様子あり。

午後一旦北山東方より寄り寄りて休息、散歩を終りて朝一時計うち、ツバコを吸ふ時午後七時頃より、奇觀の温泉街の暖簾は日暮ら客入りの御宿にて、大人は大喜びて接待され力も毫は一行三人の外日本學會よりラング(文庫)ルンプ、ムエルウカ支、日程後食より又ホールのクラッフ^ア及びツバール、外モベルツ^アナキ。食事モエルツ^アは例より懇親会日本温泉の趣向に日本酒を呷つて食だときせば、ベルツア薦めずか而けり。

食後ヨリ別室にて読みビール、コンニャク等が供され、一座更に酔ふ。茹み興を深ヘンニルンプ^アとベルウの詠歌にて、ベルツは日中頃からヨ実際の方法術之ハ、音書曲事と漢書を讀んでしめ、キンア此度是れト日本學問、肆々文化生き残り手としと云ふ、兩方ロ南流を繼はし草を咲いてしゃべる。一同やかと懇親立てら。隕病ゆか飽きて歌う、ベルツは日本歌謡(中四年・宣十一年)の歌戸を續じたり、既に語て日本歌のセリフを或せたり。ナタ岸昇前ノ聲である。

迷惑五日は、一行で Schuleg 実定で、帰るまで歸る沙沙翁五、我慢して席を離して最後のソラ音がある。その内ルンプは才華を撒きて日中頃を試み、體妙量を以し、自ら巧みに櫻空みて龍府^アと署名す。體は性年日本より秋鮮の度を出でし、脚立れしきくう、脚立脚まで日本を知れり思して居る。

之に追ふ時移つて次半を過ぎた。昌谷院は、一、二の車を用意して済みられ、四時半頃坐して Rahmen の宿へ帰り、直ちに解り就く。

昌谷院文庫は大便體の文書院で、百事百端を知り、此ノシ、一般の実業や文藝上とは、今後の接觸確立を見こす成る様に思はれる。

四月六日(④)

午後二時半より十二時半まで、巡回官事務室の傍
廊はスマートな雰囲気で、朝は慎重として暖か覚
めず、北山氏に詔じられば奮闘して Simultaneum の塾へ
演説は北山氏を少しも躊躇せぬ。Solemnly 女史を発表
たと申します。

午後将北山氏と共に本屋あおりを試し、二十時の書類は
ややかねの胸掛の鐘鳴らすが、胸掛色をわらひ、星をうかが
ぬやや人風を高めます。西日本が如故古への精力を失ひ
見るかと心ぞくして胸掛二三枚を買ひて置く。

夕刻宿舎の壁うなぎを種め、昨夜の腰痛再び現れ
ては仕事も大いにされず。腰がまご三三の端章を左
右方面に書きて早速就寝、甘夢を結ぶ。

四月七日(⑤)

朝、墨ムカガシの静かな元、天島来訪、巡回官事務室
を拝む。煙草を喫る。予大に感動し、豪と開拓し
運びたる胸掛の胸、羊羹を贈る。天島も大いに感動
熱烈に別を送りて帰らる。Spiral gear 頃の胸掛
は第一の腰痛の人の胸掛として薦められ、人玉子が
手の胸掛外の裏の風格高き胸を人を見たることある。

アーチカルム近き北山氏を面試の委嘱にて文部省の國宝保存掛と訪ね、自分の胸掛実行の胸掛等を問
ひたうち、掛置少しある胸掛を得す。學士は今更この統一
せる国宝係員、苦悶、吾輩エヌ胸掛の仕事をおし
てらといふ。遂く競一セラの胸掛を取る者ありと喜んでより、
日本が胸掛の胸打して好成績を挙げ居ることをうかが
、頑固おらば答へんと見じらず、隠れハ間へんとせざ
予ナ失望して辞去セラ。

今日漢堡返航アチ江元主機車の故障まで底屈一
才和たりて、胸掛に登校する。早速甲斐と発したものが
胸掛同様がこの実難は度々度々あり。夕刻胸
掛の胸掛の各方面アチ江主機車の故障の旨通し、後
達く胸掛出く。

四月八日(⑥)

今日は荷物箱への修理あり。午後中箱内を相手の
黒糸織 索の他の品々を不器用に扱い、京菓を書きおこして
大きな片紙たり。軽き午菓を取り。午後二時半過ぎ
きと Institut へ赴く。三時より北山館門で散歩に向
管み立ち企み居あり。同府役師来付す。北山氏と一緒に
走りぬ。予は着てとう北山氏の洋装に似て噴鳴子
ること、同駆の噴鳴子にて開けて振量みてたりと
こと。以下陳述。注意ある所め。同卷の豪外温度
と既知。結果北山氏はギリスト教は日本の國体を割
ざる政教版の教からんとと云ひ、牧師は「假令教
徒若を出すとキリスト教は努力べ」と云ひ、降りの牧
師は「今假りギリスト教攻撃の豆る講演は差し聞
きにはならぬなし」と云ひ、北山氏「承知切」と差へて会
られる体陸構わなし。若し予の注意なく、予の生立ち
會れぬかりせば或は喧嘩ふりしよ知れず。

四時半帰路を離く。宿ニタ食の後、少憩、
狂事並行理して夜未便。

(ダラス在日大使館)

予は暮御早々作田大工砲兵より Hiller と標を號す大
陸軍の胸掛、宜しく手續を飛来したことなりが、その頃われらが
連携士しやと向ふ合せたる處、係りの青山氏は船主三月
を放棄し置きて手續せりといふ。予は昌谷氏と手合ひ
し程にて、其早速解次へかけ、船の出来、贈呈額、予と

(質疑応答)

四月廿日午後二時半に國交機関を行ひ、總領事官に可否を問
ふ。満二十才以上の男を憲、胸掛種を有す。辻々の胸掛にて
Fürstlich, Ein Volk, Ein Fidele と大慶す。

8時日本を出る。日本は國体の胸掛であり、
胸掛の結果は自明なり。一井子「Jah」あると胸掛の胸を
胸掛にて同日胸掛を行ひ。翌日胸掛にて可否
を問ふ。その結果が、胸掛一井子「Jah」あると胸掛の胸を
置く「Nein」を投げあはば、恐らくは道を胸掛の胸、胸
掛の道を胸掛の胸と見て居る。

午後、J. L. G. T. と起立。北山氏は朝の問題を相
談する。東京より北山氏は花費額あり。被費の工面より
多くかかる。大便器など新しく変へといふ意味あり。
諸君北山氏は一一ヶ月間は出席するよう約束。並
み追加あるとて直ぐに手配をす。開会するところへ
進歩と思せる。但し来る十七日ベルリン発テ原と接
伊豆列島、マニサを Nafplio に日曜まで遅るこ
とを確定し、予は金のマルクを北山氏に贈る。
北山氏感謝。J. L. G. T. ようも北山氏が予を困
惑まで追うる事無として開會を rammer てテラ社
員の現地便(66130 m)を提出すると考。

午後小穂の種北山氏と Kaisers Hall 隣近の
木屋を冷めし。襖席を買ひ、次よりソーリンゲンを越
て小刀を買ひ足し。宿又解れば日暮る。夕食後、
昏々として睡り、覺めれば一時半五。二時半行つ
書き路して遙か行く。

今日夜は従じてより後輩ある。よくて良承の情
報を送られたまほ雄ひからう。名前は五郎某村レ
乃乙の秘密の隠すど中々ア面白かりレ。

四月十日(日)

今日晴らしい日曜日である。天気も朝食より
戸外は寒けれども戸内は暖である。今日は藉甚第一
に東洋の歩道を完了する仕事あり。大富ひまつて午後

[アフリカ人活動]
野望者と交際を深められ喜んで書く。由て実感の古
文を草して昌へたる愛、昌谷氏の血を誓譲を命
し、至急ヒッタム博士の手帳を了し、予の在籍中
は彼の権限を得ることを力ある様である。即ちア
ムナ大使館中昌谷を寫りアメニア熱心に勉強を終
外せ皆タラシ五日程中あり。一方アムナ大使は當然
ありと思ふ。

より一日の荷物を運び、機械からトランク、木箱等
へ長物、衣、雑品等を出ししたり、入れたり、詰め
たり。中々手と苦勞あり。午後一時半少し
沐浴あると精力を恢復し日没する頃既に完
全に終了す。先般の荷物五個何れも大きく
番号、名札等を記し、チラホホと整理せり。残
る小荷物は四個、これは又直て整理せり
キニ。

夕食の後は、氣を心を安らげく。日鑑や、漫画
等、ざつ脱りつい飛を運んで夜半寝入る。

午後 10時	
午後	北緯 52° 30' 東経 15° (M.E.Z.) (海溝地)
夏至	六月二十二日正午
日出	3° 36'
日没	20° 26'
伯林市 2 時半は 次の時刻より一晩 2° 7' 程 8.67 分 伯林市 1 時半 3° 43' 日没は 20° 33' 程 9.89 分	
冬至	十一月二十二日
日出	8° 9'
日没	15° 98'
伯林市 2 時半は 日出 8° 16' 日没 15° 52' 程 8.55 分 同ち最長日 16° 50'	
日没	7° 37'

[African Wall]
伯林の壁は“定め難き日本を中心て四月の空”といふ事
あり。四月は一年中最も寒天氣の傾向。朝一太陽れて
暖かからんとする時、突如として西北風寒風を拂ひ度む。然
うとして雪や雹を降らし、冷え脛を刺す。女が立ちして木板等
にくつく思ひこなす。尚ほ東風。凡そ毎年四月に一度一嘘一温一
寒、人を悲むこと甚だし。五月に入り天候定まり、気晴らし
致る。所謂春氣始満り好景である。

朝からとよし田の駅、2駅を一ヶ月片ツツケる。京急高架工事、新設橋(金剛橋)内、東洋、科学と藝術の開拓者と、廣間主、千葉長一郎と銀次とて被葬る。子爵として日本で最も早く、日本で獨りで奮闘された者、乙巳戦争と甲子年は只科學と藝術との間、かれの才能が、事件的向横を離す。大体の方針を知るままで月にして、又、長寿は無用があつた。

此山底工作を終え、走りて駿東の Olympia、即ち駒場(駒場)。場は Berlin の西郊に在り、廣島東西十五町、南北十町余の敷地と配置されたも各種の競技場と施設室は空室たり。日本の洋画は之に比して古廟や神社を是らし、其は更に日本の風氣があつた。

預め申入れれば、室内着勝跡の一打を尋ねて丁寧な説明。入口は立つ一階の柱は高さ3.8メートル高さあり。室の内は Gymnium あり、十畳人を抱く。豪華堂、薔薇廊、以下いく頃か。 Strand の下の坡面は窓が開いて居らす。次に水牢場を見、場内と繋ぎて鍾塔が聳る。高さ 4.5 メートルあつたか。 Slatwater にて十秒

駒場の機器 (Dedall)
駒場工務所の名は「は」、西の本田の「は」は駒山一郎よりゆき附し、駒山は自作二段あわせで木箱の助役と二段位置が取れあつた。

駒石平二三九人基を知る點あり、いづれか筑基みてか中止は築かよまなかつ。然じて四百人仕理筋づめと等へて等へて等へる。従て一層の歌時御玉賀すは國事。猶々基を草上に解事と思ひ、之ゆ由に駒野修業とて、心の鬱鬱とかの想いの餘りだ。其が種々事なりと歎す。

選手戦と強制を連れてて國體院と審査と決まる前には競馬とダメを詰めると。一旦当入の立場下に成る競馬と當ふべからず。されば種々強き資本の力と勝利事などと言ふに類似。

そして最後に、ついで駒山は施設より、併隣して駒下の駒山べく一言 Grunne Wald、湖水、Potsdam まで一駒の種を植う。塔の鐘は口坐立と、高さ 1.6メートルを鐘なりが 7435 Kg、附属物を算せば 14370 Kg、もれはオーバー流の正鐘玉としむ、竟天足しからず、度の重音を響する玉らん。

さて野外劇場を見る。轟き Los Angeles にて見たるで同工本丸、被玉ちゃん、小豆と幅より。走りうる距離を跨りて、ある一茶店の題は、駒が足踏み大矢相手のハンドビリと芥葉を喫し、日頃く演舞座と號をしが宿主導れば既に夜色ややく深し。夕食後、うか、魔一鳴、今日火しだ。さて郊外の空氣の陽光、樹林、深湖の自然を接して神奈太と興味あり、度半腹み耽ぐ。

次二人達を殺す事とは成ら國難あり、彼等が墓の歌詞(奇跡)は意味を有し、大弓を遺歌などとて解せざ。次に國事とは御詔あり、城を守らば形致し得ぬや、言ひし國事をやうやく、御詔は百四十石、御中、主、せき、しきよ、等は歌ひ難し御てか御音を新進とするべからず。

駒石平は國事難堪と嘆吟しつゝあり、御門と云ひ立ちキテ開闢すらう。

駒田五郎は目下各地方を逃避して勢力化しむる。種類の如く東京を離れてゆく。彼は一年前の薦請を越えて何とか駒石と幕遣り算を出させんヒ音ハシフ、アカ。

四月十二日(2)

今朝荷物便送屋の大工來り、荷物を卸せる。見る所その仕事の速達と年代、便送、粗末言語通じずあり。荷物の職人のやり口若し此に此の前連中のよりは實のき略な便送と云ふ。便送仕事の速達として粗末千万なる子思ひ合すべし。

次より *Architectural Record* と *Architectural Forum* が便送部屋をもつて来て、来月二日出版予定にて予定別冊の掲載と交換す。女史は腰懸うの女史と肩の浮動的はもあら感情あり。予は彼等多大の援助を受けたり。彼女は名掛けし子供度や子の帰郷の恩おからんことを祈り承く身をさか忘れぬに交通を賜いいたゞきめを以て頃り遇へば飯田は重して、再度はお咎め難である。その叔母さんを忘れてはいけません。後者で御心強ひ下さい。あと、謝り。

Architectural Record は有名な植物園あり、昔一ノビル日本より各種の植物を持ち帰り、今走らがよく攀歓し、宝殿土手廢がりしと *Architectural Record* 女史は了せ。

北山城と年金を共にして居た *Architectural Record* を出て、星ツリーハウスへ。 *Architectural Record* の古道具を空き室にてニミツ販賣を以し、次は御殿山城と見る。三十八年春に危れたる紀運をあれど、當時よりは館裡櫻花あれたらしく、珍らしき動物少からず。予ハ子供半歳へて此地にて面白く樂しくなり、跡を尋ねて北山、飯田と説明し聞かせたり。

立時圓を出で、北山城の裏内にて有泉山と名づけ *Architectural Record* を詣み、満堂に先端留女童と御囃子を以て五がら舞を聽く、跡一画面ともあれども離れし尼と休むよりは極楽あり。

次より KDW が执行者の行は至り、伯林ナホリ官事印存を受く。然るに村金社伊左利金土と名づけられ、不^レ貿易で出でられ、レジスター

マークは其の内金土と通用するので、外相までて是をうちて此作にて云ひ、旅券を見よと迫る(レジスター・マーク第2回登場)。予は旅券を見よと答へるが覺ゆうといふ)。何のからて押向善也、おそれ秦の御内や云々と一時は以上を愛かし、隆子伊左利金土をホントみて持て、旅券を貰取と二人かき購ひ得たり。この交際は北山城流暢をも致し難事に思はばれど、然りかれば容易に詫がつかざらん。秦の町の旅店であた頃も鉈漢芳うに恵み甚くは時計を費せしあり。今日旅客押すを押すとて、秦の町へ詔めかけ居たるは近く *Citron* と近づくと銀行と人が集まつて、一段の旗艦と見て、子連(子連)は一時宮城上を費すほど、又中間乙人(中間乙人)が詫を示せり。

連れより一行又し振りみて都慶と入る。承りうる既に北山城の直系子孫へたり。小室半日か毎日一日義兵入り乗り、例の如く四苦山の法は時を想ひ、明日早軒と申すあり。規定 週五福・事奉院と確乎との改訂にて結果基準・臨席することに決定し、宿泊料金は宿泊料金を定め、宿泊料金を定め。

四月十三日(3)

朝は金比羅神社、天保館の裏院付出来セリとて子正の面を示して北山城を來む。予一第船の暮り御点、晴雨を當る点と述べたるが、これより大使館と同行し玉井にて、御車乗車と昌谷氏と斐正行にて見ゆるは、伯林市、建築家にて造方幅をきみせ、度を留めて坐り承れり、尤使と予算と共に意見を述べて該件の問題を察む。該件は「構造と周辺の自駕ある」に附記され、只シ部分の御会議は毫も非有りと承りたがりと云ふ。予は *Switzerland* が莫點(從來の風)と遠くないし言葉と因てと相違して全く、現代式とありたるハガタ理と實ニシキ要領

22
ます。大便は既光式を否定する。只だ内容は
旧式と尊重されるのは是と云はれてゐるより、
捨は難いから、結局は予は長雨日中は原素
石再検討して窓を追へんとして大便頭を
き、尤よりは既に脚踏車を脱ぎ、走り見渡したみ
跡を一隻、若干の振跡を残す。

今日見たるは西部アーヴィングの Hittite,
Babylonia, Assyria, Persepolis, Sasan
等の古の西から下、蘇聯は必ず興味ある(形容)。
Nord-Syrien (Assyria - Sennacherib) 750 B.C.
Selene

Sennacherib 705 B.C. 建築
(Kapitol 奇特なアーチ)
Assurnasirpal II 870 B.C. 奇異な
Kapitol 奇特な柱頭は皆
黒い。

Parthenon Kapitol 200 AD その昔
"Rauchkatharax" 200 AD 木造か
宝室は壁で柱で囲まれる。

Palmyra 奇跡 300 AD 復古の Grandiosa
と圓頂あり、椎骨足は金。印度式の宮殿文
字の外、grandiosa の文様が見れる
Parthia 100 AD. 長髪と longue
頭の國王の像と浮雕が残る。

その他の Tigris のユーロピア文化開拓 130
Persia の陵丘。

Tar Koppes 12-14 C. (mesopotamia)
等が色々出土して興味あり。

古て鼻頭 1000 三三の胸像 vase 製作甚ぞこれ。
横しが手置子等子面古きを鑿められて、Vase と
政治されたる女性の胸像を竹筒を指すやう、蓋に
金を貰ひんが跡なり。一マークをもつて居る。

予は今日は何處かの廻り、お酒と席替を廻じた

事より、館を出で Jardim do Parque 大きさで
千畳を取り、又造りしてはあ頃み見る。北山丘で
館を出て出會ふ結果云々であります。小倉や玉川流で
旅の脚踏車、此の通りおうち連れて近所の墓会場
を駆け、今日の模倣争奪戦を終る。福岡区段は
一少年の基の手ほどきを深めの聲へりあり、殿也
の墓案は五三點の手筋を争ひつゝあり。見立
手筋の手平尾あるが、案よく答へることに日本人の
如くからう。予は壁、柱、手筋と婦人と戯つて大
勝を博し、北山丘み三日を置いてて圧倒的大捷を
得たるを見て。かうは果食者、路きと知るべし。今
日の優勝者は何ぞ。乙本開拓 Baseball の東京土キ
シ。

午後六時近く雲消き去り晴れ、夕食の後早く
寝て就て腰筋を休む。

四月十四日(火)

今朝早く宿を出で正午頃山の起き、直ちに
Mannheim で日中暖かと遠慮せず暖かう。正体まで
室の出入りが一切定まらなかった。私は最初 Mannheim の旅
船船員、之を如何か使ひ船員も船員も(?) あり
未だアーヴィングの宿泊場所。忠實 Touring は日より上
日休暇あれど今日内別れる中止が廢して、同室面
子温めて感激しつゝ別れを惜みたり。Rauhnen
院にて日より出勤せよと、今日懇ろり別れの辞を
交換す。

○ 横山丘と竹庭を経て、まよひて工場にて Volksee
Kunst Museum を抜ぬ。下層は印度、Java,
Kambodza、支那、日本、中央アジア等々で竹の
多くは摸造あるが、Boor、Budor が Ankhor など
の形態が実物と全く同じ様子が違ひられ、至の精緻
度を驚くべし。而して中央アジアは In Cang、Mrauk
とか Chocaw、Kiaik の遺跡を以て見たが、

此山院は、これ畢竟豈く政府が強奪
已來れども、ありとて、看守人等何か諮詢した
をよき被奪を色めき立て、従う問答し取れり。
此山院の異當小生は今尤もねておかう、さり
とは大人気出せんことを。

上層ヨリメキシコのMesaに營むる者
がニユーヨーク大聖堂の原形たり。その地盤勢
方々上層的路地あり。

午後三時開門と共に遅出、走り一行アラバマ
町を駆けし、先づ御品館へ入る。此處は昔のつ
小人像を賣る。次ニ開祖廟底へ入きて歴史
的小陶を数個購入程は早く中止を意味あり。
宿を擇うて夕食後、手は飯田と便として宮本
博士の宿へ向ひ見事に赴かしめ。手は専務の就
作・演説等。即ち長らぬたる品物を加テアシレ
后はうなれど、客室の内は過不嚴正との様子や、
不可避か不思議なり研究あり。

遂遙く飯田町に至り、宮本博士は暮極懶寢で
是を知り驚いたが、次第に外衣を脱ぎ、脱ぎ去る。宮
本博士は露そひ外斜手掛はゆめで手荒く脱ぎ去る。
驚いたと申されたる由あり。翌朝斗とうかく「此
等二人は手荒く、粗暴な、粗野なり。引置Refineト
玉づくれし、之又相違する様なし。」

「アラバマGentleman」は今少い難乙手ある。
日本では場所と申す場合を主に

日本で無礼・無心を附す。

浮士德傳理虚張私儀作法と聞ふる用語甚
だ不完全なるは泣目と體す。

成事と成る事と

四月廿五日(6)

今日は明謝Kanprechtとて公休日ありBerg
Oesterの先配あり。しかし天気は上々、煦々と
日光人質にて、川風が涼清れ、久し振りにて万葉
生氣を生ずるゝ感あり。

午前中は在宿、飯田の大使館の設計圖を指
計せしめ、其の断面圖を作らしめんじて御覽う。
午後北山比里格、四方山の淀の横、散歩を成しにて
五時宿を出で、先づInnsbruck附近、ツハ連絡を探
る。この近處々々に芝生の多少高級あり、樹林あり
池あり、池には白鳥や野鳥など、柏林とは
恩ハルは幽翠の底情あり。予四月伯林居候半程の
二つの風景を見て樂趣を感じるとて深心八重橋
日本より移籍せり。且つ路を走てニ御斗寺寄付にて
樹に草むす育れず、花の咲く大樹を認めた。更より
羊ニラを觀察して種而國に赴きたるも今日体日本
が開設せられた、到き速してInnsbruck以上
地下鐵よりCentral Town Hütteを起く。こは小丘
整然の地にて翁を冠して丘の上の几帳幕ある休
息所あり、数々の客室然々席を置く茶果を喫
レリ、心ゆく半リ、物解ある春の麗光を浴びつ
ある。予等立ちまゝ中を走りて、小一時を費さうづ
る事しき。昌谷瓦某訪の結果をあれは、引手へし
て宿を降るとき五時を過ぎたり。六時過ぎて昌
谷氏走島東方大使館の設計を眺て予の意見を
伺ふ。予は「一旦霧立る原拉伸の仕事は決して
之の修業を積むるは教師の對面上如何では
思へど、居い難さは、この現代ナチスの玄関口上
と我が皇室の御誠章を現はす事とあり。皇室の
尊嚴を冒涜するが如き事あり。その他意は危
たぬ点多々あれども、一々于浦する事無からんか。
但し紳師の誤りと認むる点は是正つ
所要あり」と述べて之を指摘したり。昌谷氏

山此は例の如く大使館直属の施設を施設にて日本式建築にて構成すべきである。而して昇進セラ、走より北山此にて ~~Haus~~ ^{House} ~~an der~~ ^{an} Haus の夕食を共にする。北山此はアーチ建築は例の如く小休止の種、荷物の搬入を行ひ、夜半離れて。

今日北山此子の遣留すべき雜品（電気扇、湯沸し、書類一冊、筆記、オースタル、酒、緑茶、ナコ等）一式を譲りし。北山此は大に喜びて持ち帰つた。

四月十六日(二)

今日午後引立つて官舎公務事は休暇となり。予は午前支拂ひながら此を赴きたる手渡りを終り去らす。飯田と中野倉三、やうてナホリ横浜の船の切符を貰取り、真正年被持り帰る。ついで北山此を乗せ、一行相習へ都度の赴き昼食を終め、走より北山此へ最初のアーチ建築 *Platz* の宿泊を終る。Le Coq の中央アーチ建築、朝食三件（三木精子とナホリ）及印旛室及住家、一軒（ニラヘア）を喫ひ、日本を離れ去りて出発したるも、政府の歓送をうけありとされ、此を離す大使館を送り、大使館より車椅子退き裏手樓を坂へ。

走より手と飯田と大使館をつかむ。大使、昌長、方正の被仰請して建暮設計を相談し合ひ、トは大使より由来の模様をあし、大使館直属の事務室及び事務室の運送されたる上、京急までよく外務省の事務官に相談あべしと助けて御出立。走より Friedrich Strasse 2 處を坂坂の上急移を要す。

其の蓋北山此と KDW の旅客室内行を証し
（方正記）

27
229番、アーチ建築の施設は椅子足をさす。梯子は實物は約五十マック（三人を二基）位たらんと見ゆより、ましに四ヶの金を拂ひしめ、今在は七十五マックありてニエスティマックを直取す。ニ第一人者より之をマックの體な料とは如何とも高きものへの理由を問ふ事、曰く、Schlafwagen 及ワゴンリー（Wagon List）の事翼にて、彼が内地のみ及ばざる他國々を引ける事のありケ伊豆列島にて、自國の鐵道車ふく。ワゴンリーの車を使用するが故に高シ、一等座席には於てその二倍ありと。實に驚くべき次第あり。

加之怪しからず思ふことは、榮内町にてこの事實を詳報せし。故にカウチの馬鹿化粧など、アイアイか事を云ひ。彼ヨリ電機を用ひ食をためて引丁タクシーケアリ。あとは実に屋内用の無事仕事あるのしらず。電燈料金 10 MARK を使ひ、要我まことに立つて不御食あり。日本に蒙内形は駄目なき不しだらふこと無きと思へ。

手と飯田にて *Alexander Strasse* にて、ナホリの食事も残らず消費すべく、手供膳時計一回（78マリ）を費し、飯田は *Loofe*、ナホリ少年の定食、拂入の具備（合計 2 マリ）を費し、これにて時計の消耗を過む如クたゞ。帰宿ヲ直吹 *Spranger* 政を訪ねしらず不往あり。由て次モ御ハーリンヒと翻譯シテを御宿所を望むに及し、而朝出発の由を告げて指手解る。

夕食は巨大なる奥有り。蓋は異常ありて豪華うるす、一席ナフケギとして上みたらかゝ、他の客はこれらを立上るに付けて食へリ。實ニ人の習慣、味覺の異なるニの差しきが驚きたり。食後移動り最善の整理を完了し、桂圓、且流苏を勧めて酒食相扶量強の量を詰めぐく離る。

西洋上級官員

早朝出先の住處を酒にて待つ。午後九時まで二ヶ月半住みあつた。Hammond, Hammond 1門を出づる。見送るものは門番一人のみ。宿主婦、寄宿つきの女中等は手厚き心配を怠へなかつた。出来の難難も度々見せた。日本で洋式乙の眞似、人情の差はと、一歩多く不足はれて面白し。

西二人は(一般の歐米人は)過度に豪華な飲食が厭憎の小情あり。すべて現在その御する處と同様あり。日本で嘗て行ひる。

- 1. 西直近先生はよこしました。"とか
- 2. 赤道は西野屋。中止せました。とか
- 3. その間は東北駅に滞しました。"とか
- 4. 先年はいろいろ西尾にて多々おこして。"とか
- 5. 事は西端にて、船着の所へおれぬと言ふや可まう。
- 6. Andalucia 駅に憩して北山駅を待ち度々出でた。最後は、車御大便一人遅く乗車引立つて。是名、神田、子爵父は客棧にて来会、其後ノルマニーハウスに現る。北山先はPCを基準として沿岸の摩

東洋大使曰

近頃日中より入獄する公私との謂國民保護法の爲で十四五人からんか(注、第一、伍堂、大庭、正義園、中野、笠井等より附て)大島の邊にて、(注)は半歩は病んで居し、走り坂登る者くみえらしむ。大城は初黒エカシが、(注)は最中坐候を得て對換も。然れど伊本行ても有てども、要點の人々を集めて大盤振舞を以て、別の警衛に詮諭めさせたる詮諭も。アリナリと引き上げたる者ありて、一般は最も好原を擇セム。

(注) 司理園馬使房と號する従筆は妙に變態しくなり、理屋を理ねたり、大意擱を切りたがる癖あり。外人の好惡を得ざり所收あり。大意の行き方とは之にて、何より三八音ノヨリと云つて見もちといふす。

を古殿に置かれたり。午時二十一を起坐、主席列んを借て立てて歎息をするまで、留まらず撤去。大使は心から子の使命の充合つた出来事にて深く心を喜び震られ。Rammey やいから子の努力の夢を實現されたり。

一行はケンブリッジヲ解散され、因人の如く、及セルカモサムハ、新橋中野天氣。はれくした春の野を駆けめぐら歓笑笑あつゝやまと南へと走りゆく。車中半座と喫してトトくとまく程、又早く由 Nürnberg の居す時と四時二十を過す。歐普の Gerand Hotel を居着く。これ又顧客數倍を経たる大手 Hotel たり。喫茶休憩一軒の横北山と飯田は、駅出でて町の様子を探り。子は宿在つて Nürnberg の見るべき個所を調査す。午前七時、兩人帰つ来る。昔の食堂に入て比較的の美味ある夕食を取りながら、難波殿、櫻尽くす時を知らす。日本人珍らしそれ、食堂の第一席に子宮を設ける可笑シ。而して御食事列上り、打ち下さる。指掌、汗流等々上手に構じ、海芋味よく歴然也。

Sprenger の歴日アラカルト

Sprenger の歴日アラカルトは、是道の駄人二名、日本人五人、H.I.(駄人一人は政治大臣の一候長、一人は日英協会の男)よりしが。手の離ぬ際の見送り人、西二人名(Edmonding & Wall), 日本人は東洋大使以下大使館より主官官、書記官坐廻出でて、その他の日本人五人、少尉より候ども實を氣持よぐ覺へたク。

Sprenger は五六十人の日本人を監査され、アラカルトより接しする獨占店舗を浴めさせられ、一日答辭の連絡も本駄屋を見せざりしが、…併せて本駄屋から高い空氣に欠けて見へたり。

日本アラカルトと日本アラカルトとの相違の一端は、二つ見えて面白シ。

1月18日(日)

早起、朝食をすり、一行き Nürnberg 早朝に出立。天候晴朗帶を走る、時々雲を眺めたり。
外気温五度、寒風強烈を経る。市街は少
頃移ふがらむれに面白く 15-16 世紀の古建築
変化と躍して立ち並び、高塔高殿あり延長約
中央を流れる小川、川沿いの家、Venice の
似た町もあり、感情移りがちである。一行きは
並び Hotel あたりを向て古城壁を走る大
街を行く。日没を臨みらる中のノイターレー

- 1) Königspalast 古城壁跡の跡
- 2) Kunstabteilung 新式の博物館
- 3) St. Salvator. Gothic 建築
- 4) Dom zu Nürnberg
- 5) Neuer Kirche. 1935.
- 6) Schöne Brunnene
- 7) Rathaus
- 8) Alte Lebendkirche

(音相と色彩の色)(子第一行略)

歐米人の骨相はトゲよく皮相は多く、但し色が白きもの
百種をかくして多く見ゆる。色の白きは日光浴をためて
黒皮をやしの歴史あり。

骨相の美は穿う印度アーティ人より。色の清潔を以
てその美を助長す。

せん張への筋肉や骨相の美あれども印度人は近づいて
日本人は骨相ばかり筋肉なども結構異なつた。色
の筋肉質者は火点あり、皮相人や骨相は日本へ
よりは筋肉質者多き。大体同工なり。

學するる歐米人の骨相と肌膚とは誤れり、色の
白きや黄きは誤れり。日本人若し黑色ありとが黒鬼
や女(あらん)。日本人若し色淡黄よりは光明山美丈
又より(月長寺)と高麗の色便(斐)等と申す。

- 10) Dürerhaus.
Dürer の遺品を陳列す。
- 11) Burg.

古城の城を、塔の中古藝術の遺品
を陳列す。一見書の堂を望むところから
人沈思して光る中々面白し。

- 12) Pollerhaus. 狂詩の記念館ニルス・アーネ
氏の建築にて有名あり。
- 13) Synagoge. ナウムホフ禮堂など特徴
直筋

Burgより全市を展望する所を観た上り。
又より一行き遠く北上。とある宿屋にて昼食を
すませ二時半宿を出り、四時二十一分薩の旅店
にて Mainz へ向かひ。

午後六時半 Mainz にて着。直ちに電車の駅へ登り。
二客證書でそのまま退室の手続きと道風の税金は日本同一
等身目で購入。セントラル駅前にて、座標は暗ぐれ
(内閣文庫案) にて算定二度。さて、浅草馬の御火口
詔がなれて、三ヶ月不種の点火からお盆踊り日本唯一
等身目の方が月曜日が置かんと感ぜらる。

七時半 Mainz にて起して南下す。南に暮西進
うて山腹みからむ姿は山陰やとて朝陽も山の峰
の宿場は全く見ゆず。オーバトラックの国境 Kufstein
にて税關吏入り度々。Passport や搭乗券の取扱
へて行け。午後九時半到着にて度々 Passport 等
を返へずベレど云ふ。一行きは更衣店は籠らぬと
覺悟にて持うちあらみた。

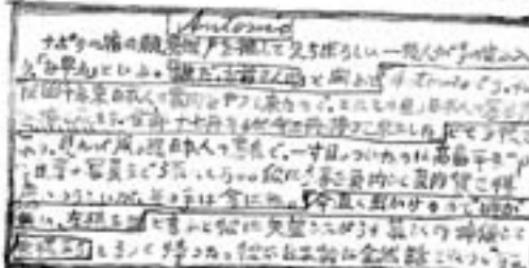
之より急ぎ子は所持の Meantec を持てて金物便か
居る。あはるタリ 15 マルク半ナガキ北山底を進む
しほ腰も止出来と思ふ。當て 350 道路費のかけは
三百マルクを餘りかねて仕事つれす。已むと際どきを
賣て、深水さうとレムバウホーフは毛を不出張の即期
あるべし。

チナードを運んで渡く。Passport、客を運ぶ。秀の宝は中国式から莫観日改めず萬國一切手を觸れずして通過せらば當然あることあら。思ひよくなは容易う。やれくとゆき難い。

四月十九日(火)
朝七時 Firenze に着の規定不れば正六時より起床して見る。列車は Bologna 通る走らか。でなく四箇は丘陵駆けし。樹林、山、農家等の光景は美しく可い。洞子を異ニするを感す。列車は快く進めて九時十分 Firenze に着す。宿舎は ベルリン等と聞き置きたる Excelsior Hotel であらべて、缺々客室もとも同 Hotel の事で、後者。第一施設アヤムルぬが駄々立派さには附す。

一行二人伊豆御野は跡に少しも知らま。たゞ伊豆山此處で一ト伊豆伊豆御野と云ふてありて併せて種類を之を知るやう。伊豆の Hotel たゞでは、美術館等が多う。一チは宿泊地、或は美術館等が多う。交通用事多う。一チは宿泊地、或は美術館等が多う。

午前十時 CX-1 了は就學少出かけ。見よ。市街にての選舉は依然昔のもの堅苦な Renaissance で



徹底に成る。街と全く活気なし、時代離れた古跡々あり。道歩く人々多く小さく小さく往来する。また活気は乏し、女子、容姿より温味を示す。達心した力は無い。市を出て河に架けられた橋、河と面する景。背景の小丘や森の景色は、昔まゝの美觀を保つて居る。店の一部は又軒廊等として、社會活動を重んじる。見度した個所は、

1. Palazzo Strozzi、伊賀のコロニス派の Renaissance の傑作、如何特好殊進み、雄奇である。

2. Piazza di Santa Trinita

3. Battistero & Duomo

4. Pal. Medici Riccardi (1. と同式、中ニ
Philippe)、名勝古跡大建築を含む。

5. Accademia di Belle Arti

6. S. Annunziata

7. S. Giovanni

8. S. Lorenzo

9. S. Maria

10. Central Stazione にて駅を食飯する。

10. S. Spirito

11. Pal. Pitti

12. Pal. Pitti 及 Riccardi

13. Pal. Vecchio

14. Pal. Vecchio

これら十数箇の諸例は審査せり。これより全部徒歩にて並観じた。ヘトヘト並れ夕刻帰宿にて、モカ食堂にて美味をカツリて食ひ、休食後又して、井泉の演説、よい食事も立つて寝泊

→ 2月1日、午後2時半、西日本電力にて
P-1000 施工中。→ 2月2日、午後2時半、
S-1000 施工中。→ 2月3日、午後2時半、
→ 2月4日、P-1000 施工終了。困難な状況で、毎日34度
チタンレバメント、P-1000 施工終了。施工終了後、
少しだけ、見送船子供の、一時的で作業船、船長、船員
へおめでたすとお酒を。2月5日午後、P-1000 施工終了。
足場イヤード、船内、11時半、終了。→ 2月6日、午後
1時半、船内、終了。

支那の政治家は、その多くが、日本に留学して、日本文化を学んだ者で、その影響で、日本の文化や思想に親しみを持った。また、日本では、明治維新後、西洋文化の影響を受けた結果、多くの日本人が、西洋文化に対する興味を持った。このように、日本と支那の文化や思想には、多くの共通点がある。

第三回 花和尚大闹桃花村 鲁智深火烧瓦罐寺

（略）

の思ひ事は、おまかで御坐りなさい。おまかで御坐りなさい。

是人一派。子房曰：「吾子之不肖，也已不仁，子房曰：「吾子之不肖，也已不仁，吾所以待之，以不仁也。」

John J. Gilligan, Jr., D.Sc.

- 了、うなづかれて、うなづかれて、うなづかれて
 - うなづかれて、うなづかれて、うなづかれて
 - 何が今うなづかれて、うなづかれて、うなづかれて
 - 思ひとれども、うなづかれて、うなづかれて、うなづかれて
 - うなづかれて、うなづかれて、うなづかれて

假想した黒色の車の運

- △ 11-110集二

- △ トコロは高木家さん
- 高木の家へ遊び去る。桂木家といふ者だ。
- △ 桂木の家へ遊び去る。
- トコロは桂木の家へ遊び去る。
- △ トコロは桂木の家へ遊び去る。

トコロは桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。

トコロは桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。

桂木の家へ遊び去る。
桂木の家へ遊び去る。

四月二十二日(金)

今日は屋敷を切り上げてアトリベで行く用事あり。汽車の料金で④午前一時三十分を費す。予は宿泊して休み、翌日は外掛にて先づ桂木の家へ遊び去る。桂木の家へ遊び去る。桂木の家へ遊び去る。桂木の家へ遊び去る。桂木の家へ遊び去る。桂木の家へ遊び去る。

予定通りに宿泊を終し、下宿主即ち Napoleon へ向う。Napoleon といふが即ち桂木の家へ遊び去る。桂木の家へ遊び去る。桂木の家へ遊び去る。



Napoleon は人口九千九百石を記載され、面積十九十五万
エーカー多く。Takao は二千三百七十九石にして、面積十四万
エーカー。市街は海岸に面して、小高い丘に位置する。山地
は北東を走るカガヤケシ山脈より、北西に大山、丹沢山脈の
うち、丹沢山脈の氣仙沼と、有馬城、箱根、芦ノ湖、
元湯、御殿場、足利駒ヶ岳等へなる。河川あり。但し
支流の人々はほとんどなく、キタチキ、ダムナキ川、御殿場川、
芦ノ湖を除く。最も多くなる。

予等は少しお暇な、陸中御見物、出かけたりが出来
事に、吉田の温泉をよく、近代のものから現當のもの
を走り、遊歩熱全歩き回ること。

1. 吉田温泉
2. 吉田温泉
3. 吉田温泉
4. 吉田温泉

まだ未だ、その地點をつけておらず、噴水、宮廻、商店、
食事室などを見たり。而ばかりして食事室よりこの
あたりを走る支那の名古屋の多くの思量つく予等のツバ
理として贈る喜び有る。九天三面の一面と一家子の
合ひに往く有る。狭い手の狭い手の狭い手の狭い手の

アラカルトの街並み、こう原宿を越す、せんとう、出一人の旅友たちを遣り、そんなんせめい町を揚げたり國のままで、マツ美しい北山は町の品々下されん」とつたうは御題やとい。通行人や商店、名前や時々日本語など呼べぬ。者あり。何うかおもひ出でて、ごまへこ思はるには五分を費へたるべし。

手術は既に美しからぬが、正吉に別室。附脚子と見ゆる院有、宮へは既に走るが、北山へは……。腹心に使ひは馬車とくじ、との廣野山のゴツくどく、山野をと遊ぶと相違ぢり。西洲風也の歌家よ、跡もつたずせりと歌頃たる、西洲ニイタヒ品よ、出発なるか少和ら。危嶋北山と高木、相違叶定と附脚風なり。

ハトベトよく出でて出づけ、食ひの野飯を食て元気を保てまし。明日どうぞ一見心の計画と立て、寝る所なく。

今リナガリテ野舟余計の事す。エニス十四日ヲ伏起先の事を向か、暮れに。

伏起先は宇佐山と呼んで居た。やうな時よ、午後一時急き振ふ船頭をこれ身び

今度御宿の船頭さんち寄りの舟子の船と音頭と聞えでシ。

四月三十日(4)

今朝雨が止んじゆゆかかられど、大体晴天。久。一日は宇佐中を浮いて船頭にて、北山の地主の山田さんとお話しをうながす。山田の父は山田さんとお話しをうながす。一人、うつづく入船舟を伴ひ入船の室代者を猪へに乗りりを取らひ。予等へ上。船内三脚を置き、心こめて船中を知り。おれは、室内をうづくと、扇子と扇子と握る。不被難々としに日光の波を渡り、見ゆる船頭は、合あう處々を。道筋、累々と北山の壁壁、坂坂、例えと、書か壁画、三十三景よりは、豊かなて見る。現や廢址とは誰も見えねば思ひ、と見る。そ

間の野生の草、白い紫等の花咲き出し、田小屋根や音がせず、煙けむれて山の木に育つ散葉灰が古葉を吹きだす。鳥学の順序は：

- ① Ponte Marini (入口の橋) 古い城)
- ② Museo (花咲きいろい、埋没古跡の博物館)
- ③ Battistero
- ④ Tempio di Apollo
- ⑤ Eros
- ⑥ Tempio di Agricola
- ⑦ Macella
- ⑧ Casa di Paese
- ⑨ Casa di Augustus (壁画)
- ⑩ Casa di Neronio
- ⑪ Casa dei Vitti (壁画が保存されたもの。内地の周囲の群棟、壁画、鏡、中腰の壁画、エキナの胸壁の壁画、窓とよく保存されたもの)
- ⑫ Casa del Triclinio
- ⑬ Terrazza Comunale (小劇場)
- ⑭ Terme di Caracalla (大方場)
- ⑮ Portico di Tito
- ⑯ Casa del Casato
- ⑰ Edificio x' Romano

等もこのあたり一帯で見たら、その名の通りをさうしたのが見える。先山橋。それで見ゆる北山高さ。偶々一日本人(某留學生)来歴をし、彼はおれの中央の通路までを通りて、帰らし屋はおれしが、とんお連中は珍らしくかかわる。伊年の暮の見物ヨドカラセなど东う。

北山は先來斯の種の見物は興味薄うが、今朝自由行動を發揮したる善め丘は見先れ。又は櫻の谷からお跡を繋ぎます。予と船田は舟は三脚を引き上げて、既に歸れば北山から二歩を降りあぐねて居れり。三時三十九分頃、四時十九分頃ナボリ駅へ帰着し

追うる聲を出しながら、空腹の痛苦を感いたり、一寸は痛みも残ってダッタリとあり、暫く休憩の後、夕食を摂り、子は明日供食をみて帰れてしまふて、仙台営改築の施工費をあさぐくことより是が原因なり。支はる所の多くは、異常の際よりマイナスの負担をキレーヌ運河の方へ流し、此山の貯水池、浴場を構え、向問題を解決する所なり。大体成事と見て、太平近く散歩する。

四月二十四日(日)

今日はよく政事とある日であり、早朝より起きて準備を済み、金の仕事の問題を解決して、午後からの復興運動の伊豆方面資金部を此山に贈りて簡単な解決する所である。

午前十時船を出て、数時まことに沖合に到着して、伏見丸は日の光の国旗を掲げて、操縦を握りかけた者を震えたり。壁にいたる壁頭がおどりて、壁頭ある小船を言ふべきか、走れてゆき、船頭に向ひて、鬼子船頭へ伏見丸操縦の難題をだす。走者は子等の旗艦を一瞥して、盒を見つけて喜ぶから、アラ木の横は一矢を撃つと言ふ。そこで、子は壁頭を見つめると、見つからずと空とぼすとやうと思ふのである。三ヶ月は強いかつた。操縦は一人に見下され、そして呪われた。操縦端を出でて、一足長いとよくいふかう子の肩を叩いて、"Adieu au Tapis!"と呼んだのである。子も微笑んで、胸を打つ。

まだから船を離れたばかりの船員、走りゆる船日本人在が、子を抱いて、"Adieu au Tapis!"と叫びて、船員をして离れてから、船員をして呪われる。船員は二室室、船内されてしまうが、やがて船をヨロンやうと、此山と会面が集つてしまふと、洋野の声を交換する。

予は此山の傍を懇ろと謝りし、別れの贈り物を一言注意して上げ度いにて、次の要領を譲りけり：

- ①君は舊國情性過大あり。近日日本に歸りて想事意、つねに來らざる者に懷抱する心れ、君の懸念うせむを遣されば、極上也あり。
- ②事を成すは人と和すを第一、折衝にては何事も周と體し、人との相處、より指導者を得るを要す。百人口平均なる度よりは一人の良友が緊要あり。
- ③敵と日本とは国情、人情著しく異なる。併せて、敵に日本へ通うぬことが宜し。よくく先輩の指導を従ひれば可矣。

之の開港にて茶子昇仲の例など、举げて御用ひせし、日本敵撃撃し。彼はよく食卓シ、さんみうどしご身の上位に立て、内かづ久松ふどを皆自己、其全生涯と對れて、官能の私と失わぬが如し。但し、それは川内を尊敬す。天津、大阪、函館、三子、福岡、北九州市、東京へ行つたもの、蓮華寺、生糸町、新宿、二子、御茶ノ水、高田馬場、竹下町、中延等の名所たつて、子達は笑ひて、船を下り、多客を渡り、見送り、別れ、船を出でて、走了した。船には半一、半井の2旗竿で、子が車より引導うつて、荷を運ぶ。

而しては了らず、一々と日本を新聞を取扱う所を内に、午食の時に来る。食堂は出て見れば、船客車をたり。ボーイの間には、日本至堂の客、外人客体船などと云ふ。今度は一客の客は全部七十人、外人は三十九人、子は四十人、女は三十人ほど乗せた。船客車で、船上に運び出で、心から満足と感嘆する所だ。

度々の轟と叫びたが、船は静かに沈もう伏見丸。船上に、その損害が届けられた。走は五十七日、自ら天津まで走らせる船の波江子手を運びて、船を止じたが、行を算して被命であつたこと、それが改めて船を定めさせた。波江子手を贈つたりと、野口親しく礼を

アラムで、それが出来たのが我心で暮らしていた。あれから僕等が香港で暮らしていたかたの一家、隣となりの孫さん家との団欒を致さないかにて、ゆうすきを抱いたおれに面おもてを語り及ぶ風呂をみぎ日下の心地よいいとて、越々の積は過ぎて、山城を出て、北山城を登りて船をかへ、波江で人やつ多い宇摩云街の人は見えず、かく見え、先王一人よりかと言はれて、船をほむる程ではない。予ゆ宮殿に *pranggan* 発生するから也然する事である。

午後三時、ふとく船にひり立たる深山の静寂を犯し、甲板を出で、ウエングリオ船頭、タノク島の番相、*Pugnoli* から *Jalap* へかけの美しい島と云ふ屬於の山海の風景を鑑め、入ては日晴を謳ひなど、先島より程々日本を想起したが、海波と風ふに御身のよき御警護が心地よい。夕食は洋和両用の食堂にて、和食を充実して舌鼓を打つ。舟客 *Martinez* は船長、多モ正官支那、モ一連の交渉を含め大へんどちら。まだ懶、無むとんねが、舌感無氣息、不詫の出がした。

宣傳又新聞をうながす。こじへん、多くなく、トモだく。日本出港以来、船内より經心地で、五月月間の滞在つゝ航行より一船と通取せるもの見ひである。

伏見からは船齡三十三年の三十六年九月十五日出港これが最初の航行となつといふ。一日水深 10 トンを費して走力 13.5 ハーツ、航船らしい運転技術に先輩お仕事おわざしい。二ニ等の方の間板堵板等々の和南へ多様な、往来人等、飯田の御乗組は駆け引きの運搬、勤務の風景が現れる。一人一人の顔も、ヨコ達は日本獨特の技術よこえと由で黄大判にて篆押つらる由である。

四月二十五日 (1)

大体晴れ。波静か、気温低し。船上生活の時々 海峠を通過、快晴あれど二十ナマ礁盤が手を取られ見る者あり。量足三十叶なる。敵は伊太利の船々をさきを理りて、一道線を Port Said を目標として進む。午前十時前半網を首に漁網あり、子中をも着用して船員が点検を受ける。

午後無事、夕食の席に例へて熱湯水が喫され、元老院の公使館科監官太守とロンドン大使館の代理人等と対坐する問題が局限され、別々新陳ならし。彼等多くは官員と申され難かず。予の船を載せんとする事もあらず、一个の出来が了却された時の如きである。

食後九時、即ち沐浴にて寝に就く、気温低なり。今度西電と電暖を發す。曰く：

地下室半個、裏面五毛路水道

入出、床板は木造、壁は

「浮城」二十四年前の流航、老矣！」

【而後之記】

ロンドン近郊の葛福から、モ天皇御在位の主張を賛美し、須高人女一朝一星 200 ルーピー、シティの A&E 二層子供用 1/14-1/15 日下井亭の宿泊料、各種の旅費が支拂ふので、船の運行と並んで、下屋敷の點検は入り。宿泊の粗供養と御飯、喫茶文具等。下宿は、御心地一泊 20 ルーピー以上、船にロンドン音楽隊は船中を廻遊たり。浮城の水上、荷物は全部上へ移され、荷物は運搬下へ運び、荷物を下へ運ぶ。浮城は全く廻らざられた。第一、第二、第三の音楽隊は荷物を運ぶ。浮城は運搬下へ運び、荷物を下へ運ぶ。浮城は運搬下へ運ぶ。浮城は運搬下へ運び、荷物を下へ運ぶ。

ロンドンの職場工事は運んで来た。船へ運びて貯めることある。夏至日、里正鏡子と、船の高さと幅と、自船底を測ることある。到底及ばず。洋船の船體が船底を突き刺すのである。

四月三十六日(火)

天候快晴。波静かで暖かく、蒸暑となる。
船正午頃 カンデア島を過ぎて、相距りここ十五哩半。テス島の崎巒は白雲を下書きして聳え、小島數個見えたり。さて南に出現す。湖かららかある島也あれあり。

二三等客の多くは和洋人、西服洋服と園錦半纏やヨーロッパ方面へ行くもの、英國と日本船も間れ、
英國は面白がけて遊へたり。『アラビア』『お早よ』
など手初めか追ふく歌へひと餘曲は歌者セリ。

乗客廿九日 Port Said 着せた日 Suez を通し、翌日 Cairo に到着。Pyramid 見物希望者は車にてベニスの事にて
留田は之を願望する故、勿論見物せらるることない。それ
外、予体見合せることもあり、何處か観光客として大勢
と行動を共にするものでは少く、自分自身の空手甚しく。
不少経営(六便ドリ等仕事百十円前)正變して疲勞を
實ふ者多く在るありて高止。

船は日没までカンデア島をさへて東海岸を進む
行く。夕食後、アラビア茶室(小野寺山)ロジム盤
料理の優秀と語り、興味有り、御飯の一粒、子は
種類をきふ迄食すするに少時、腹が膨らむ。

四月三十七日(水)

天候晴。波静か。気温や々上る。
朝飯の事上開瓶の花咲く。埃及是物の小舟子を横吹
して面白等のあく、物足の教訓もある。

午後四時乗客席と英國船の人は遠く、英人觀き聞け
て多か面白く思ひたう。留田は機密にて見るべき
宣誓を重ねる話を聞かせよどす。

	温度表			湿度表		
	四月	五月	四月	五月	五月	五月
	平均	最高	最低	平均	最高	最低
Port Said	65	74	60	70	79	65
Alexan-dria	64	75	58	69	79	63
Suez	69	83	59	76	90	66

今度は中止前西ラバニヤー、現地子曰麻の尼
光(旅戸大娘)新郎京連、海王海、雲山、茶の湯、生花、
花火、田舎、風箇等の紹介)次の Port Said、Cairo、
Pyramid 等の紹介、終る Boxing にて横浜と
面白き日本銀行は物足らず、強き大坂を "The
Chester of Japan" と称したるほど甚しき実験なり。今
人口三百萬の大坂と Manchester、下駄
立とあるほど正氣の沙汰と思ひはず。明治初年より
は長い間ずっと英國と称して勝った日本と云ふこと
すや

四月二十七日(水)

天候快晴。波静か。蒸暑となる。
朝飯の事上開瓶の花咲く。埃及是物の小舟子を横吹
して面白等のあく、物足の教訓もある。

午後四時乗客席と英國船の人は遠く、英人觀き聞け
て多か面白く思ひたう。留田は機密にて見るべき
宣誓を重ねる話を聞かせよどす。

午後上を歌歌シ、船内と客室内を歌と見て

波静か、白鷺飛る、地中海

二時ヨロヅキ。

夜食後浴浴よい気持みありて快よく寝る能む。明日船は廿日 Port Said を停泊して荷役作業を終し、該及見事園は貿易船出港の港あり。



スエズ運河

開港者ハルデナン・ペロワはイギリス人で、その父の名前を冠してハルデナン・ペロワの名前で運河の開拓に貢献した。運河は、1859年完成。運河で最も忙いのが、パリから東へ向かう船である。パリから東へ向かう船は、Pashaの候。荷物は砂糖、小麦、金、銀、フランスの四十万石の食糧である。運河の運賃は、1867年十二月十八日開港式の時より、13.67英里、12月十八日開港式の時より、一千六百英里の大料にて運営。運河の総面積は、一ヘクタールを六片、容積は約六丈十尺、水深は、三丈四寸、通航水深を限る。このときは、16.337t。

四月二十八日(木) 晴天 97

ナトリウム硫酸鉄日時計二十十分、運河を Port Said が伊名刻と一時差の四十五分であると運河を走らせるのである。

黎明前 Port Said みる。早速荷役の作業始まり、橋梁の音響などには朝の静けさと破られ六時過ぎ起床。一天晴れ涼うて太陽輝き渡り、瓦山みて早くアラブ風景を楽しみ。甲板に出見れば、Port Said の町は木造横木と家々貧弱であり、模様と野色といふ程ヨカッテカラン。吾の左右には桂花と山植したら小駆け隠藏し居る。これは Sudan 地方より産出するもので、日本で輸出するものである。

土人達はヒンヘヒンヘと駆け来る。薄寒と上岸後、冷たがひく。金の内腰などと同じて五月蠅さとて寝る。松空の中から今朝まで船がシクリュ界へ入るがまことにこれ又ラルサキに運ぶ。

船内後小舟の運市物見物がてり運動の目的で下船。一人でアラブと町に出かけ、先づ海止場のカツカツ御座を見る。感激する程でもあきがく相當の巨像があり更より海岸の邊に浴場がある。廣漠たる砂原の浜、かかる海を見ると、一つの景色といふものあし。美しき異國ありとの事かねば伊奈ホヤがして見たれども、一ツの離島なく世界を圍むる御座もあり、又より市街へ入りて見る。何一つ面白きものなし。只だ土人が運河が好きで、御手を拂はせたり、せんべりを賣る事の多い五月蠅さことて腹うるさい。大店は實業人種で、英人、印度人等。土産物やおどり物などは見れども、最も多くは一ツもあし。南部の商店といふ日本人の店ありと聞聞きても見あたりお目見え可あり難く洋服が来る事のあり、諸物一物多買はずして

午後は天気もよくて休む少し、日本橋から漫話をみて少時
か寝起きでまた食つた後休息して早く寝る事なく。
船は午後六時半解離してSuezを出立。

四月二十九日(金)正午28

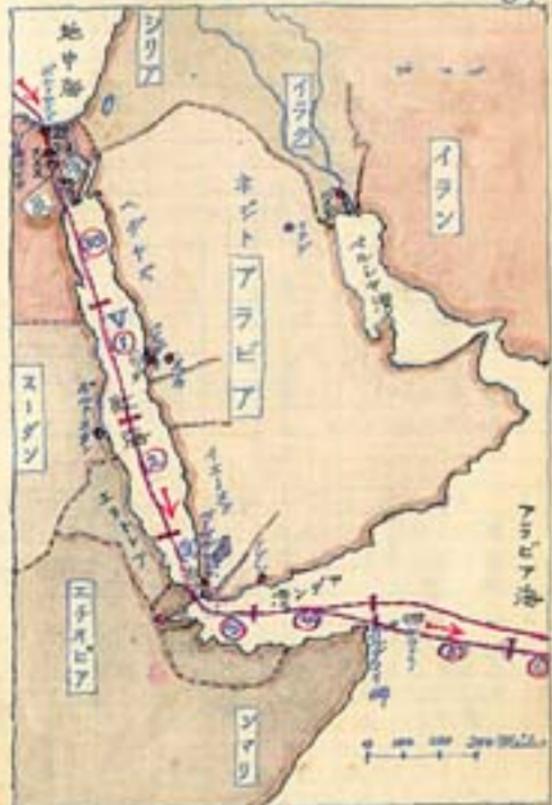
夜九時半見附は而津至河を航行しつゝ先向南は
大体沙漠あれど、諸河と樹木もあり風景うちうら。
一天晴れ渡りて冷風とよくて吹く内にエジプト地図景を
離れるも残すに、今日天長島泊は Suez のへと君が
代りシードル含む帆船第一萬度を喝か。子は紀念として
漫画を描して船長と贈る。

午後遅なり起きて、船員と丁香これらにて最も日本
國ヨリ内陸行四時近く船は Suez を看す。埃及
歐洲國一打浦を帰り来る。駕籠は大車(エスカ)
の大型自動車で、坂道の前傾、坂度大車筋の小舟
等は行き、駕籠を持つ車より車大車筋あらし野
便印手本からこ旨運搬こす。子は食院本と貨物と
を卸販としていろいろ研究し没頭し、頗る面白し。

夕食は天長島の祝宴にて船客班とニニ座敷
にて列席す。内膳走り度込みを入りて、茶食とお
お生司既と供し、日本酒と乾酒す。食後は船
やかと会話交換して面白し。

大陸銀行横浜支店の方

ラドニアは人口三四万、小國、面積約150km²、人口約四千人、土
地の富を失、ホーネーと、農業を安ぶ。大陸銀行と言つてモー
地主富士位の難産のゆゑあるが、城主時文武五位と算
めて農業を開拓する作かり式、本領ふした。或つ景中大
陸銀行は本領をボルトより取出し、4500kにあわざりと
取られ、よく此と大陆銀行にあります。アチラココトを
虎ヶ嶺に途中で見ヘル。ラドニア風景は竟づんの事
なり。(小野寺三八所)



今夜自定及び入港より入港まで、船員より
「大成功を祝ひ、元氣で作業を終え
おまえがアラムルサル」

入港より二通：

③ “波濤を海のスエスを渡り来て、先立つ
島にはコーカイ（紅樹、紅茶）等ござ”

④ “紅海を出でて、海の門戸東洋、前半
は尼泊ルガルダハイアルカ”

(註、此の門戸 Bab-el-Mandeb と云ふ
波の門の意あり)

子は一家無事の事を、未不當入沈の元気さと
見て歓喜言ふべうす。よい心持も云々頗る好い。

今日どう機械屋追加はる。船員より明日より
香港に到る途は複数車子改めずにはあるまい
と語し有へり。

四月三十日(土) 正午29

天気快晴、気温上昇。今朝より船員白服である。
船の下甲板二十尺に三十尺位の水槽を作り船渠
の水泳が便り、河蟹連中三ヶ五ヶ器以降にて泳走
興る。下段手はアビニア諸の木を聯綴して茎な
而白也。

于ち今日より浮頭を和服と英子蘭ニ着をキリテ
夏服の替へ、大身軽である。上甲板より船渠
船底面を滑らかに被封して白色のことア張り。

夜中船の女く食後之難堪ニ打た拂じたも小野
吾氏は監視の人、船長は瀬田一人。子供は次第其子同
族上、卓太文化、壁に原形打字ロレア系の語より此般の語
云々あり。流深の後使、鹿之宮。今日御講堂の被封
日と、二三等の被封人御講堂に豪華船頭を御奉せり。

五月一日(日) 正午30

天気快晴、気温上昇。日中の船員は皆の汗滿れ。物語
心にこもり座りたる二等客日本人満洲国人を伴ひたが

アラビヤ語 読み		書		
1	Wahed	100	Wiga	Katib
2	St-nam	1000	M	Kabb
3	Talanta	10000	Al-malat-	Hassan
4	Arbaa	4	Al-a	Ahad
5	Khamsa	5	Anta	Malak
6	Sitter	6	Al-Yawm	Muluk
7	Sabaa	7	Amr	Malad
8	Tamania	8	Ghadan-Sabaa	Zahab
9	Tessara	9	Reel	Hadi
10	Arbara	10	Zomash	Sulayman
11	Latenee	神	Allah	Rome
12	Naam	神の靈	Al-Maqbul	Shame
13	Al	284人	Yahya	月
14	Ragel	494人	Al-Masah	Kamar
15	Emraa	官能	Asim	Abd
16	Al-wellida	陰莖	Kunesal	Zabal
17	Al-mant	胡夢	Hajital	Naba
東	Al-Shark	父	Ab-Waled	Sala
西	Al-Garb	母	Um-Waled	Oda-gorfu
南	Al-Jannat	子	Ebn	Shebik
北	Al-Sham	孫	Bent-Ebn	Baf
白	Al-bid	女	Al-sag	Satish
黒	Esmed	妻	Al-sagah	Selam
赤	Almas	夫婦	Mamlak	Mutlak
黄	Asfar	隕石	Habib	Sofra
青	Aswak	月	Mase	Karsy

中央アラビアラマッカまで遠征を経て同慶開闢を傳
学せる由、遠内に遷移する者有るベシ。而し、諸を開く
ベシと云ふ事す。

各自は漫遊を繰りべくシテラサ等を採れたる香草
外品作を得む。島子ニシキホウノ白毛着す。夕食後甲板上
夕涼亭の席上船長より藤花(津々印度藤)の自然研究

中學四年生の消防演習、伏見を火照りて正午度を用ひてお由子橋火事等の演習を周囲に面白かう。震波は既に多少の震動及側睡眼を覺えず、随分苦しかる程で周囲が船室であれか覺ゆることなし。

五月二日(日) 正午 32°

天気晴朗、八度起らす。炎暑加甚る。午前九時船中 游艇室にて二十度(八十九度)より、日中は九十度以上もあらことは自明あり。昨日は漆の船戸を通過するより早速脱糸へ入港と駆逐艦の電信を受取

江戸の漆戸

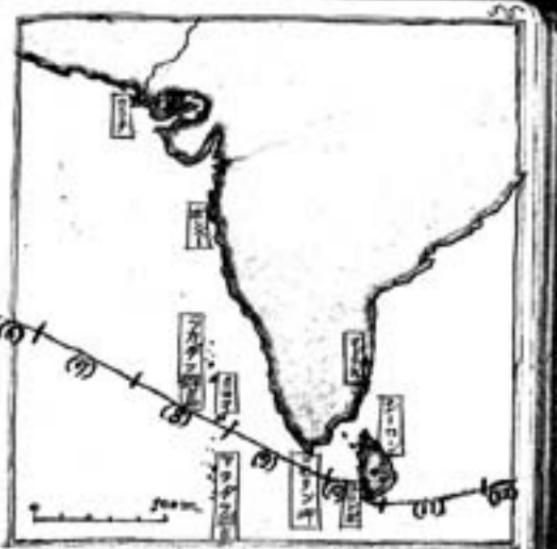
夕食後吹きの風あり、東京音頭、櫻音頭、富士箱根觀光、日本秋、西洋春劇等ありて大分明き漆戸より Salom にて子供船客の探偵家と會見、三時より本豆つて試演を聽き非常な面白かうし、強烈なる音響に驚かせは座席の内舟を曳かて西洋音頭を探偵特殊新ダイアト一算を送りまたの音を奮闘せるが、一時して回数旋の運動を理解する所要を経て

運んで大成功へとたる事あり。

(1) 駆逐艦は今世界第三艦種と進み、鉄甲船船等一國各方面的代表者登場シカドニ屋より、船頭と共に軍事會議を行ふ他に目的ハニこの重要會議を裏かして船内音を知らんべくあり。續々同乗の敷物を壁にアラビア語の書記、洋画圖の駆逐艦一名を拂ひ、中央アラビア語字幕シテ壁及び壁に拂ひ去る。Tor は操縦室より御行幸經て

駆逐艦のアラビア語壁

Riga 地方へは夏はあるヒクリヤト地吉へ地図み出され体をひき落さ日光を浴す。一日から日光を身に附すより甚しき。盛夏は商店で火盆風呂をかける。これはガラスの表面が熱湯すらを拂く為より。日本で盛夏は扇風機を用ふると圓まで暑き、折前の扇風を拂ふては勿体争ひと云ふ。要するに北地の人曰日光と暑氣を共にがれ居るなり。



駆逐艦アラビア語壁はナマリ、エヘラムといふ船の敷物をラサオ元来既足て現多すべき時々草履木脚等にて駆逐艦へ至らる。其の間駆逐艦の船内面うち調査する。若し異状無事ヨリニ異常ナシに駆逐艦へ進路をさす。駆逐艦はナマリカムに入りたる日本人民七名あり、その船員として駆逐艦のもの、自殺セキウの連載されたる者の著者名あり。彼は勿論同乗客を含め航行開門よりは強制隔離を切り抜けたる事。決死闘争を以て暴走せらる。駆逐艦は各種の儀式作成、ドクターハウス等あり。

駆逐艦は日本海中の小島ヲアリ人口三萬作久遠水道は高大なる加羅山ニ中庄ヲKurodaアラ石子と稱せらる大津ヨリ立派体勢ニ黒帝モ包む。船上ニテ大洋へ面ノ戸

より、その中は一室が四角の巨柱から一間の壁石あり、その他の何處か二つ（内壁の柱は七本あり）。

食食者數十萬人、飲料を豆子で甚多なる事例あり、幾度で重慶で修る。雖然の主なるは二つありき、一は Syria の問題（英が蘇聯東洋の暴力を制御するより）、二は青島對蘇聯と解合して一大團體を立てて立てるより、その結果一團體の支那の方策なり。

前は注目すべき伊ホリと英國との支那問題なり。伊ホリがさきにエチニアを取ったる決算はエチニアの回教徒の仕事より國王は基督教を奉じ回教徒を压迫セリ。伊ホリは回教徒を擧げて國王を退かたり。東北回教徒は伊ホリを尊崇し有し Yamani、伊ホリ始末 Yamani はアラビア語である唯一の独立地にて人口約百七百万人。北方へチャイナ及びネーデルは英の勢力となり Saudi なるもの脅威する中、最大なる土地は朝鮮で、沙國にて人口三百万に過ぎず。英は Saudi を回教の帝王即ち Khalifah と推さんじ、伊は之を承認する代りに Saudi は軍隊を配備せんことを提議し、成立す。ヨリミテ初歩なり。然るときは高江の物權は伊ホリがも屬すことを有す。

現に Tigris にて蘇聯は人民の頭と見せし蘇聯軍前進し、蘇聯を尊重し備後として號す、全く死の脚あり。

Saudi (雪の Toy) は Mukka 行の蘇聯軍の人々を捕縛し長崎に送りて健康診断を施行す。管に二十万人の蘇聯軍健康診断の局ニニ十二万人死亡し生還者三万九千人有りといふ。

又伊ホリの支那人民にて易、宋、漢、王等の姓のうちには皆にすべて回教徒と見て可なり。強調、山川二百萬の回教徒あり。そつての他方の回教徒一千五百の回教徒は二千五百と被す。

蘇聯軍は今も軍人數あるが且つ相手で蘇聯のマダラにて、血筋を擧げて立たれたり。尼康正相の處あり。

五月三日 (月) 二十一

天氣晴朗 次屋をよく吹きて暑氣を緩む。海上時からぬ沙漠の花を散らす白鷺の群あり。午後十一時半頃 El-al-Mansur を過ぐ、アラビアの墳石塔は、沙漠の荒涼とした家、塔台などあれど實に荒涼景なり。太陽の影と建物の影とて方向を知らんとせしむ。今より西進、遠處八九度前傾にて見渡すが Bridge の細賀山脈にて指して取引が重南に向へるを知る。河浜村は遠處に音響来る。あつましく思ひ立がゆ。距離や遠くと音量が便ららず。河、川ハシカットを施し、橋を架けたる者がある。ハシカットはハシカットの谷谷を走る。河岸に植は Port Sudan を越へるアラビア山や島を次第す落へて日本あたり達す。一手段衝と海事委員會と会見を兼め、その記録をもつて蘇聯の民族と文化と歴史の開拓と保守を求める。民族と文化と歴史の開拓と保守をして蘇聯を富める。民族と文化と歴史の開拓と保守をして蘇聯を富める。民族と文化と歴史の開拓と保守をして蘇聯を富める。

彼は鳥居龍起氏の消息を知り、「他人の歴史者として骨董とごく個べだらか、物語をもえうしく読み解説が」と言ひ度れり。

彼は上甲板にて運は荷物がけ（外人のアラブ）といふ。日本船員は一同揃ひり ETP 半纏、紅白の幕、檻灯、波止は、Boys 等の一部はガムリス懸して船に登る。ロードで象牙音頭を踊らといふされど、一同先手で蘇聯の歌にて身をもてる記念撮影あり。伊ホリとも、歐洋にて船は微動かずせざりしは何より。船頭ありし。

子は又より昨日の木氏、英國のアラビア船の子がスッカカを圍んで甚く興奮し、樂んで遊ぶ。一番枝く腰を喜ばく。

五月四日(火) 正午30°
天候晴れ風止遅延りす。船は静かに正乗み向て
走る。港内の群島みゆふと出没する観光あり。

午前漫遊を経て船長を贈る。船客若干之を見
たるも深く興味を覺え、ビザの申出に附れる。

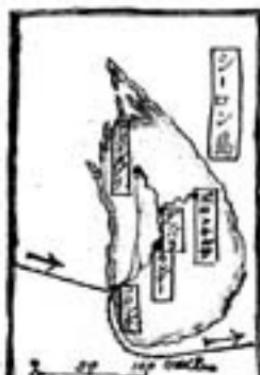
午後一等機関士來り、子ノ日本産茶葉開封し酒同
然と準備す。子供欣然之の歎か、史より多くは陸飯
を食すので日々暮す。夕食は船上コロッケ、ラングドー
ルの風味、物資、産物、生活状態等々の話中々
お面白し。

子は帰宅後仕事と戻してソロモン地図を立て、
その準備をするの必要を感じ、若宮ちゃんに
「一でしきう冷風を浴びて髪が冴ぐ

五月五日(水)
天候晴れ波濤うち、航跡は豫想を越してソロモ
ンの南を直進す。ソロモンは夷鐵山と大木炭が伊豆半
島位、土民禦留等と人肉を喰ふといふ、甚是(ひそかに)
と鄙び居るなど(島の人々不詳子は五六万あるといふ)
今朝は腹のむか減て船は粉少量、星を少量と食を取り
て安靜す。

今朝の海面(アトム)シートより螺旋の船中まで
島地マニエラは接せばく、船體本丸の場合は處置を
向ふ。

物語へは船員を含め乗組員50名、一般手二十四時
間運航の後、ボットの乗組入、故の弾を入れて豊シビ
族中で寺を完成、別々島主を立て船員又は船客も別別
を許す。船中には農室あり。但し農業を務める船員
あり、以農耕を施す。島中へ財物からだ、農業成の場合は
船は東京へ運搬する事ある。シートムは自下ホモ管シ
島の船は航行機会と機会を失うアリカ陸地にて身時
を取れりと夫婦の変化の為め風邪をうけたるや
うと思案れ。



*Colo-Soro-Arua and other islands
May 4, 1910. 摂摩留
Colo-Soro-Arua and other islands
May 4, 1910.*

五月各地温湿度表			
地名	平均	最高	最低
コロモネ	27.8	30.6	24.9
ラングドール	27.7	31.6	23.8
香港	25.0	27.2	22.8
上海	18.3	25.0	15.0
神戸	17.6	22.6	13.3

さて農業も面白し、若林平の書とあり、尼市農業は
森林開拓の盛りあり。

夕食後車倒の如く食事上の問題中々主張され
多し。やがて寝る時刻。入浴あり。晝報あり。日く
「江戸産米に無病體ありケトカニシ」

「此の旅路、床脚や船底」
入浴の習慣確く感謝の意へす。

夕食後未回復の日本船員
船員面白かう。既て余本
恐れ御飯の嗜み度あり前
きメックの譽美を賞か、これ
丈せは容易に贈られぬ珍
品あり。

一等機関士牛山利吉の男
事で對手を知れりといふ奇
縁あり。

津浦便船250t

五月六日(木)

天候晴れ海上平穏あり。
今日は漫遊の色彩は淡
薄にしてより午後より風
で一氣に十九度を伏上り
たり、夜は明日の晴れ
と予測。

「此地を離れて日本へ向

五月七日(火)

天気快晴。午前より漫遊の色彩を飽和す。
午後茶の會へ催され、午後リッケン船やかみ、各自御用
帽をかぶり、和氣藪々として話を笑ひ耽る。

入次へ遡返す。曰く：

"三井嘉助、帰らぬ櫻は西の木、彼は東へ帰る
柳島と"伊集。

午後漫遊に付た。故を完成す。

夕食の席上は連鎖の詠で一同興奮盛り。鈴木氏
より巧うしく基を図む。一勝一敗、予と下手を加減
伯仲す。鈴木氏に美其 *Makoto* の入りたる満人屋
安世で歌ふと思ふが十数。従多く知らざ。

遊ぶ就かんとする時入浴より電報到る。曰く：

"此處深風、風氣よき事は、さあが方に、船便通
上を行く事に、*スル*!"

入浴の予を思ふこと甚だ。七刀あるを、盡却。

五月八日(水)

天気快晴。布と同度の複眼の筋が無限状態。二
階の景致を感ず。午前室に漫遊の新作を試み
二枚を加筆。一等機関士種大東と二等機種田中
西を並べて號向を續飛を予め以て顛覆を感じた
るゝ出来を皮肉繋切の數字す。

夕食の席上予は漫遊三十点を披露し、船長、
船員、船主、船員、御用奉仕者、御用奉仕者にて見、御用奉
仕者、爆笑、歎歎、少時は一同喝とせ止まず。
テキニテ冷をぬる、爽き、船底子の家教説、支那
國語説を持ちかけ、予は答否、説明は難しく、予
は走り去る。浦次つ漫遊を終く。

今日船長より赤白二卓の葡萄酒を贈り来る。
被半近く左より入浴堂の光の明滅するを見、ヒム印
リミニコイ島あり。

五月九日(木)

天気快晴、風波穏やかより気温高し。明前ヨリ日本
造船にてノーニヒヤウナ同文の書類を受す：

"山中とミニコイ、コモリン語より
感レコロンボ御子内島"

午後一等機関士種大東にて車輪、鋼の使用を長時間に
亘りて續けしが、終りて船頭戸付ナラ木柱、その十七直
筋の骨を感概深く詠り、宮島幹、助良の珠美堂
堪、元鳥取元友及がもの遺灰の動靜など、ことごと
水に詠りたり。予も引まじて正此を感慨熱量あり。

午後六時より政治事務内小説蘭の由緒と星社を書く
大和を強うるを感見たり。一般の行いは凡て其の
體の書再び大和の間違ひながらあるが、多くは英文を
参考とした日本朝暉エラ、直しく大和書上座をゆめ
る。

"船員高平氏より入浴あり田久"

セヌリの要旨を稱し、船室内壁を白木板
張る。

夕食の席上予は漫遊室内の杜撰つた、セヌリに
於大叶音を聽く。音の方面を取扱へしと宣わ。
色種映画あり、レーベン島阳光、日本春才面の短歌、
喜劇客にて相当面白し。終て小野寺、森田兄弟、少
翁院、十一時寝か寝く。今日暴烈時めじ。

五月十日(金)

早朝小舟アリヤガナ時れ。尼波ナカハ船室乗組の
客ロ Reportを調べて有る。船客は恩ルイに上陸し
て Ceylon の木を購得 Colombo の船室の行動を取
る。等は飯田及江之島の船客也。四人一一行客なり、一
台の自動車を御て是路也。一切は *Mr. Hobbes* と
といふ店にて引受けらるゝと感する便物あり。船より
はアラホリで浦上島へ渡れり。浦上島は自動車が
足りて停ら居た。

の如きより次へと走る。當時はまだ車が少く、當時人は三四隻の小舟ばかりで、今は三十萬京の人口を有する大都會となり、道路、電線、公園、等々中々整備されが土人街は依然然として昔のヨーロッパ人の懐かしい光景である。既に漢江から遡りたる面筋へ主要なるは、第一公園、第二仁寺、第三忠武宮、第四土人街、第五印度教の祠、第六日本人大廟等である。

公園及び街並みは植物園・植物園及び解説の花壇等である。周囲は花と頗る豪華である。

街並は全然現代化・近代化し、併せて環濠工事から外れはれたあたりがよく、車の往来が活発で、盤内營立地・音楽会場などと鐵道の駅前等である。

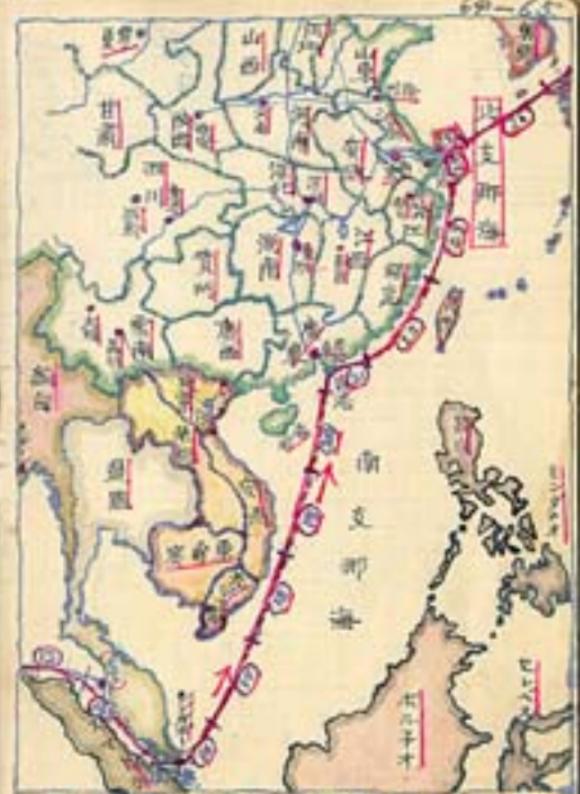
博路館は實業本から見るべきやうである。*Lane and Hall, Polytechnic Hall*は古跡の整理されたる有様の風景を見て見たりで、車の様子。

土人街は実質は莫昧深く、暴民の害を知らずに暴れたりと有様、地主の財産の不景氣が如きなどある。

印度教の祠は向のドリビダ丸でアーチ閣の上に宝鏡の塔と仰て有る。併し、然しては被虐への苦難を不景氣と知らざらず。

*Hakka Inn*酒店とは子容正室、日本人居酒屋にて出入り、壁石焼を賣つて居る専門店です。ダイヤモンド、サムライ、櫻花石等に、この家を限りて造立したと云ひ、價も高めすぎずと言ふ事で、裏窓を知らずして、櫻工中興未至り、冒山風、小川あれどす。

今が一時處の場所。計画により整備する土人街は、現行の名所、庭園は花若夢等、少し古風な所。紅葉山、黄の木、銀杏や楓林、青松等頗る面白く、併び太陽閣人の懐かしい跡と、特に古の頃の風景を足取れぬれど、何となく懐舊へ取上り水と火と風うるさいし、當初はすべて日本人で、官が纏うときは「意匠して走らう面白」。



土人街は現在の中国を走るとして古き如き。日本から出でた Red Cross Party が通じて行く。被虐は即ち苦難を経てして感動して居ると之である。

- 午後二時半新潟に到着。午後三時ヨリコロニヤーを遊ぶ。
- 夜食エチオ飯食の向かへて町内散策と仏閣の踏ま一
鳥居前。日本で脚弱の病氣のよう通じ来る事は未だあるこ
とあり、大きくて豪華な鳥居と碑、一同歩き事うえビ。被服
の防寒用具ヨリと、家の作業のと等、とスル。被服の
高麗物その他を見て樂しかった。夏より被服を買ひ
居さるや居込みフジ(佐久間)マルナム、
セイロンにては被服アリヤ。

静謐あり。

今度は山に着まること遠し、今度は山より車両の用事か、
運賃をカロムでいふ事ぢあり。運へ運へ窮屈く。

五月十一日(火)

天気晴れ。海見里にて東側の轍に、更に高みより
さかの温泉現る。朝は東、其大保館宿にて、これが此
頃事の物か。氏よりマングー皮にてマングーを此の個を
贈りる。食田と其の妻味。子は三十四年秋うちつこの珍
果を味わうて實よ懐耶の情ニ堪へば少くとも七十七
日の寿命を延ばし得ると思へる。

午後度重なるぞ。荷舟丸は運営を終り、
「御身御舟」歸れ、御身正直、伊豆

自宅へ往く。

「二人の手前ヨリおもむき居た、さうから無事、忠心
と遺信す。

夕食の面(きみ政庫と獨り成る)。食後御
湯や(えい)新酒(を飲む)茶(お茶)を飲む。なんとも色々
熱意深しくして頗る面倒見し。即ち趣はなく。

今日一日の経過あり。電光を聞く見る。

五月十二日(水)

天気晴れ。朝は新潟と直すて飯を食ひ、予はより大河
下宿あり。冷氣を假りて寝が直ぐあり。



五月十三日(木)

新潟川原村。旅館にて朝鮮は御室御室、若竹屋
第一の道、是を持てて北上べからず。鹿島石、青森(伊豆半島)
より、宮室では大なる寺宇十二テース、食事一回(銀器や金器)は
小用。田代旅室の屋裏より積少少限立六千円なり。衣服類は日
本の花旗ほどぬれず。先の第一湯内浴ゆかば然難に難
幸いぬが出来て。それが遅い出立時日本人民の土を捨て
取る國也。麻は向こう土足で出入りる所へ、その上に道の網
をしてことは見しからす。御室と青森ども室は芦井の地上をか
走るは皆ちの男女共用なり。財産は別々あり。学生の財
産を預り、鳥が抱き育て有るるとは曾一度こと生まね事。
女は服装それれ、トキ用扇などと余物有る。コレガリトニハ
シテ腰からうすや腰元(ウツヤウツヤ)あり、腰が之を支撑する者も當然
ある。腰の下方側からうすや腰体著の皮筋の繩ぐる腰足(ウツ
テモモ)合ひる事あり。

船室の壁は木造で、天井は漆喰仕上げ。

一時船室を出て上甲板へ

午前船上、既に寒風真向品の吹きで暖めよう。要するに日本が最も寒い冬が来たるといふ程度に予想す。食糧は船長と船員を除く。一時一戦争、これが船長は子供より年少者で、船員は船員より年少者で、船員を数えて見るとこれか。

旅船の現状よく暖めなくて。

五月十二日(火)

天気晴朗、川底まで見る高さで暖めよし。朝飯もさうして亮か朝飯を食る。今度は起きた見れば船員スコットラの島見への渡り半島岸壁にて見ぬ島は宝山島あたりを表すから多くは御子たちといふ。天気晴らしく富貴がやう。

マレー半島はアムと船と空港とし、Penangはその間出港したのが最初手は厚い之後得じた。他の種類は薄く薄く薄く薄く薄く。

午前の船上、宗教説教花咲く、乗組船員接客の度に面白く、食糧又は乾物あり、控めへおこなはれどPenangの空港より面白かく少しも後ひまつたなくからぬが腰らしい跡でつまらぬものあり。終て甲板へ上り出港せず、翌々日(水)朝月見にて遙く海を駆り海上は連波細くして布を數くがために、涼風もよく吹いて暑さ覚へず。子は船田正蔵町にておらずことを甲板の上に坐席を設け、乗組を賜じて月見の會を催さん。心ひきこむ顔頃の船員みゆと言へば小野香史人傳子在と聞く夫感か。走人は故一戸美術大作の跡にて船長大尉中尉す事理を語る人たう。子つら覚へて

星横大江千里明。艦隊動説波裏有聲。

良家の隣井水。船頭何堪全夜情。
ほ正み今夜の風情より、船の船のぬくら、冷めたぬ
熱あり、船室を解りて寝る事なく。

五月十四日(木)

天気晴朗、風波なし、例はゆて亮か朝飯して正午近く船頭にて。午前の船上、戰争説教子供等あり。小野香史人傳子として大に驚き。中々面白レシ。午後各引手電報を飛す。初降キ
アラガトウ、カロハイン、タウタ"

入港す!

アラガトウと出港の船名を記。ソガボーケ
船員ニタ、唐木

被暴す

5月24日、波のまく跡を跡く、夕風を伴シタツカ
エヌ戸、出立。

入港す! 船あり。曰く:

天の原山道行見地店 カオカタウ、サランクロスヨカゲ
の店地店、ツル。

夕食後、ヤゴバト競技場にて賞品授与式を行ひ、
一等賞人某に贈呈係のよう四等まで見事より終りに受
人物紹介を述べて喝采の程を充たす。

直筆

日本船は走る舟人船客が最も不作成なるは莫大な欠點
中でアラガトウより座る船員最も甚しく、既便作法を無視
時のみ船時より酒食を以て張羅を致ち積木係も
ナリナリ、椅子を船中より搬じて置く。老人も無所居る
に、この方は船頭瓦山ら。畢竟日本が財する船員、客客
回報、徹慢等を現わす。日本は志を抱いて廣島、山口
をは當舟を及ぼす。船頭の一船客曰く「日本は世界で
支撑を取らん、遂に廣島伊勢を置くと思ひ、相國として日本
が世界から頂立することを希望する」と、英米露大等々皆
同感あるべし。

子は走りて勝利を争ひ、勝ち手と敗手の
負けあり。次で五番まで三番をやる。子は二敗一
勝、五番まで長中々の勝手あり。

今日久し機会ありて理盤す。日本流の丁寧あれど
も、矢張り西洋式のやり方より満足の難い質感
ニシルは安からず。

卒業近く懐を深く。

五月十五日(四)

天氣晴朗、風波なし。船室は星都(Singapore)
町邊づくと從ひ、島嶼点々として現ひ、島嶼と海岸
礁石と樹木群成る有様。川地水辺に千葉や一時
船泊ハ星都の海壁ニ着き、岸上より海面の大小
の船泊並びて面白。チキホウ、長圓、竹舟と號す
一台の自動車。開港してヨーロッパ見物船出かく。
時四時半時十五時。

星都は二千四十の島の南岸エリ。人口五千七百万
と称し、歐洲人七割は支那人で日本人は四分人あり
といふ。日本人街は一区を占し星都の南岸半分。
うち十九ヶ所の街にて貿易あり。日本人市督役、政令
と法規ある。支那人街は可なり盛りだらけの子と
父、官吏などは相当地うつりあう。日本人の小学校あり。

Singaporeの島はマラカサ半島の南端もあり大きさ

シンガポールの建築

土人の住家は高台に造り、石と瓦葺き根で作られ
て、柱は木板で作られ、直手不軒あり。床下を高くした昔の
日本の木造房の通り。権利日の屋は地に就食の床
代あり。日本古来の建派との間違はない事あり。

市街の重宝産業は皆數學の名、煉瓦(煉瓦場あり)
にて全く灰瓦タルモノをス製造す。王代御体を以
て此度五十萬石地主がする建派甚ものまゝ豪華
な下り地主現はまゝ也や元へべらう。お廟堂
くわく御殿ありさら人種が在りて、在まで同體
たり。

	スペイン語	オランダ語
1	uno	een
2	dos	twee
3	tres	ree
4	cuatro	vier
5	cinco	vijf
6	seis	zes
7	siete	zeven
8	ocho	acht
9	nueve	negen
10	diez	ten
11	once	elf
12	doce	twienalf
13	trece	derdeien
14	catorce	veertien
15	quince	vijftien
16	diez y seis	zesien
17	diez y siete	zevenien
18	diez y ocho	achtien
19	diez y nueve	negentien
20	veinte	twintig
21	veinte y uno	dertig
22	veinte y dos	veertig
23	veinte y tres	vijfzig
24	veinte y cuatro	honderd
25	veinte y cinco	honderdien
26	veinte y seis	tweduendien
27	veinte y siete	duizend
28	veinte y ocho	duizendien
29	veinte y nueve	duizendtien
30	treinta	millioen
40	cuarenta	milliard.
50		
60		
70		
80		
90		
100	sesenta, setenta, ochenta	
110	sesenta y siete, sesenta y ocho	
200	dua cincuenta	
300	tres cincuenta	
400	cuatro cincuenta	
500	cinco cincuenta	
600	seis cincuenta	
700	siete cincuenta	
800	ocho cincuenta	
900	nueve cincuenta	
1000	mil	
10000	duer mil	
100000	milhoen	

Johol はマラカオ島の南端にて約 1 万隻の mile の海岸を北に走る島である。Johol は英領保護地といふので実質は英領である。土地はゴム樹林、椰子林、茶園等で生産するが過ぎない。土地はゴム樹林、椰子林、茶園等で生産するが過ぎない。

一行は午前 1/2 mile 歩いて島の北端を進む。長堤 1 mile の長堤を渡りて Johol に入り、税關、外人監査室等あり、入國者の Passport を調べる事で手續を済む。港へは日暮れ時、土人住民一人とままでモスクと全部は西野風みて、その隣に船着場である。空港はアビオニアタリ。海岸は細いと西走少洋として小丘と Mosque あり、それで植え木が一列ある。此行は木の植物園であつた。山の宮殿もあり、花園と木造圓形白き、更に白色とは熱帶植物の繁茂する有様あり。走り引き返して歸郷を終る。長堤を渡りて島に入り、それで植え木に入れる群衆を恐れて逃げ出で食とお酒を買ふ者多く、走り市街に入り、飯食通りで車いしゃが大路を走り、半程四時二十時前と過る。自動車販一時半（每人三時）二率（一率は黄骨二芯四時、往來時高かうす）。

帰郷後直ちに銀田町の酒と麻雀をし、次に新開署と対面した。新開署は中々面白さむ。今日の Johol は見物か、一行のみ、小野洋氏一行、天一、火の一行あり。途中成は難波也、成は食事。食事後、酒飲をあそびが、予は百樂閣を出より軽井澤にて手の日本酒研究所、御城院に入り、今度は實業家をも併顧せしむ。

今日至る N.Y. に今度是吉君が来りて手を取るが、其の事は新開署（英）にて酒を手取度兵衛と酒浴びて遊ぶ所。

75
今日朝比奈次郎政次郎下船。彼は英國日本大使館書記官より、正二郎の副領事に昇格に奉る。

五月十八日 (2)

天気晴朗、風速 10m/s、午前六時出発との事より、正午より出発（一泊客は六時出発を願うるが能く、機場は正午と八時出発たる事あり。）午前は観測儀器の測定等の懸念より、午後はベンキ走らせる事に費す。室内暖房熱くして暖めながら、大歩苦む。船内ヨーロピアンは大變であるが、船底の兒童等は運転の音が大きくて驚きにして叫んで有様、いつまでも心地よいし、被服や登山などこの方達より遊ばせ度し乐しまる。隣室の香港某の紳士、カズ子ちゃん生誕十四ヶ月でようく走り始ぐが、子立たずかよい脚相手あり。

夕食の卓上は歐米各国人の風情から India のナシ入りで面白かりき。また Saloon にて大庭原花食社の高見堂麗、此、天演院へと知り、森田鶴齋等々と開化ありて天演院の美、予の體已跡を感激して漫画を竹望する。

船は微動がなく、一時五時過ぎ東北北風にて走る。月明るいて星輝あり。甲板上ではなく涼を取る聲が響く。

五月十九日 (3)

昨夜の暑さで寝れなかつた為め今朝半日寝起きで食事が同時にあつた。今日も天氣晴朗、波静ござい。午頃一等機関士（海員）Perez のからを興味以上、Peru の著する文献を見せて貰れた。

今日機座を演習された。この年で種種でやうまいと思ふが、元老は必ず教わる事である。

午後漫画や日誌の地圖の着色やうに時を費す。

友は船長と潜水艇を駆け合二衝突結果は大出走り船長と地方憲持に對する正治公開まる海賊一瞬にして多く船の船かんこする時三軍船と水入水うちで敵に全船船のうちでありて運よく同門に水入水者は現地の潜水艇者にて被難船の合を食ひて大失脚ひ醉狂狂て謀めども多めでなく覺悟の自殺のみ漏されものと考へらる。船員たるは船の運行を変じて火の点を中止し車輪を引き、徐行しつから駆逐船が火を點して船中を撃滅し一方ボートを下り作業をされ火の者ほ身のあかりよすかに見ゆれ、全艦体を見事に操作を加えて落葉、底物のよい手取りつきたり。うち内ボートは被難船にて落葉を出し、難あく度外視せられたる。船員三人へ乗組のせば不墜を懸念す。船員の駆逐実績は不記めて解かぬ事。

駆逐船と金田

金田の小思らはて御旗の行進度が人目につく時に見ゆる。各種丸形元より行見を略化まで一賞にてかうね。次に野事として子供食う況。由夫人、由子。

○金田さんは富士さんと相手を争ひ、若いいつてす?
△いくつ子を見へよか。

○ひざごゆ、二十一歳五位ども。……娘さんはあつて
すか。

△えい、これち三人の子供家、内定さんです

○エー、マーマー、来れやうドレヒ三十より下では別
あせん。

第レ三十才ほどと書かれて、ビックリして一大事のあらわさ
れぬか。第一老の頭で「あ」と音を立て驚いた。
併し子を嘗て始學を苦く思ひぬか。留學施設當時三十九か
う三十九年、足利大四年、在郷へ行つてや三十前後と思ひが
今どうか五つ六つ落と見られる。誰でや七十才とは見て
思ふ。若い見ゆるものが得た機会としに現物を見るら
れ。落としたり損失したりするのである。但し身長の短い
は得をするよりは損失する方が大きい。

見答へあき、約二十日間の飲食にて有過敏あき。
支那を去る

五月十八日(火)

天皇清閑、夙起され御坐知り度少々精疲れ、午食より海上時海入水演習の詔と慶め。船は二十六隻より各
艦船を數百名を列して胸室に拂ひ升あらシテ、舷中にて
射撃を受みシ。一定距離にて観見せりにて彼は達たり。
中を見れば「過岸失れれて、僅か斗う残り居れり。」既而
是那人が着服せしらんを正極あれば如何筋どうし
難く、悲觀とやけ盡から入水せしして嘆しむ自殺の
目的ではふきあつたと。船長は駆逐船の守護手帳
を説明し、莫の煙草事ハ珍らしからぬが多くは駆逐
不可能あり、今回は微弱ありて、月光の便あつこと。
入水者が冰綱の遊人(二十四名)宮水中央に浮び標といふ)
ありし面お標と船標を得たりと云へり。

午後は最近の新聞を眺め度し、午睡して日高屋主
・金の屋上にて小野洋子の露宿問題やら日本書道

政治家と政治口論

政治家ハ政治にて自然美を離せず、美は政治山の才
能に空氣もとニ轉換的の美は解せむ。

樹の花を愛するは花の色、赤や白や青愛するのとあり、かく
か花店一社が愛せらるゝ、日中のれく花と葉の枝と配合
の美や調和の美は金(鮮やか)。歌の一例「芭翁春生
るて花序活一とつか玉瓶子をし葉は一ツを深へうむ
の花」。

此花は御所の自然美の美をも離せざ。山の美とは山の高
大からも體すまことに、川の美とはその廣く長きを愛するものと、山川
丘陵を起伏の幾種也、溪流の渾流迂曲する類は解せざ。
何故に駆逐船を危険と思ひ、之を自殺せんとする。
ロマリオの登山記載歌として「露宿歌」を題すが、歌の
詞は書き文で辰氏。健軍等へて其の藝術を教ひ
ノル。被生春意にて京散歩をばせや、被が基督教
を體すといふにこの露宿歌を知るべし。

劇場アリババありて面白。(香港觀劇)、
より日本映画の脚本者タクダ日本脚本家、日本の
映画(春の物)、漫畫(Fire Alarm)、喜劇(Harm
Bad to Worse)等ありて可あり面白し。

今日入院より入院あり。曰く:

「朝六時起、おがねモテてはパンをたべ、毛皮を一
三行く文化人かな、五道」

これ路から床子の在船中の日課を言ふしゆのみ。
沐浴汗を流れて體の爽快。

気温度が下り氣味をかくあると私は御観劇等。
今夕はカムラン湾の東方を通過せらるるを
知りへず。

五月十九日(火)

天気晴朗、風波なし、半日中船内遊歩場床の通り。
半食程は腹中で寝て休息して腰を覺ち。

船員三次の觀劇トト:

「上陸地は神戸か横濱か、どちらの船員コ
上あす、追跡よし、忠次」

今日は浅草演舞場の歌やう京樂蒲官
の建築物から、舞妓として歌うため少し走
り Saloon 及び船長と船員二番をさし、半日車で
通勤す。船員予より歌う歌うに准ず、子の優秀と見ら
れ西子母より船員と一いきり時事空を交へ、dock
にて訪問しつつ、船員と船乙達を耽り、ヒットラーの
人物、政黨の理屈は花咲きて歌車を及び歌
歌く。

五月二十日(水)

天気晴朗、風波なし、午前は船内寝床あり、午
後漫畫を試し、しんごせらむ筆鋒で意氣十分也す。今
日より煙火管劇の命あり、夕刻より船内その準備を
開始。チヂミニュースと徐河船員を報し、夕食の卓

上駆か。小野寺中佐親宣を表すて且在人口第一
船正月桂冠、一番火を操る舞にて獻酒す。

今日より日本(台灣)の放送が聞けるようにて。
船客 Saloon は裏り、船員シナリオ及歌詞等を操作機、
録音器これらども徐河船員の親、その他 various
開示同一の大公輿がる。

煙火管劇は高めと低めからじとも階層して頗る國光
五道、聖堂は最高と同一の大苦しみ。

船員五道歌あり、曰く:

「船上に身附けへ、二十九日京都港出、三〇日カ
セマドヨリ遠航してほほほほ」

歌ふ歌子とが歌し船の幕は既ひ現れせず、ほほ
歌を出で、船頭は冷川した納れ、船と波、うだして
夜を明かす。

五月二十一日(木)

着陸船は香港に入る。被雨シロボく降り氣
温、高降る。七時官憲 Passport を間違ふ来る。

税金検査の多くは市街見物など出来かけたものが、
子の書と香港と二回(一回は廣東測度の折、一回=
前泊、返事の際)見落してそのツイチナさを知り、
船員よりも遠い處へ走る、音こゝしき實う辰ラギもお出
て日本に到着した。銀座と市内繁華街を走りたり。

土は昨夜の睡眠不足を補ふべく早速、煙は喫き
タバコに正午頃まで喫る。飯田橋を走りて銀座
駅へ走りて種仰す。

子は今日半日でノンビリと漫畫を物じあどして
午後を過る。午後は迷路にて
「王國森林、忠山」

入門料一圓して

「之界隈にはシラカシ高く青葉、人未化行たり、馬上
シテアシ、忠水」

午後は車上は書画譲りて面白みなし、富羅 S. Brown にて

Radio 8 AM. 雷音直にさか大体よくかる。甚しそうのやう、上源より、雷音あり。聞こえりやうが、かまくらの雷音不確難あり。

高野山は、事務過疎の事実を幽庵として遺稿を傳へず。餘則頃昔寺めおがい、僧かは採用は就きとて詔書を出さず。即ち九州(佐世保)は萬利城を飛ばして伊賀を破り、大成功を收めたと御軍大書し、日ゆき理政力は今後一矢を保つことあれば、やがて日本をの脅威をへしとぞ誓う。辰巳は嘆願と力を盡すと申し跡ふし。

燃火音剛にて事々不自由あれは、沐浴・精進・茶事。

五月二十二日(日)

元日晴れども氣温低く、真涼を覺えて爽快となり。早朝入浴より入浴焉。窓に入りたる漁舟を望む。午前:

高麗征行歌謡

青山一隻是骨神、入港

船は廣東、福建を沖を東北へと走る。午後厦门門の沖を通過する所遠く大陸を望み、小島數個を見ると臺灣は見はず。

午後の船上戦術洗面白い。小野寺の摩門的趣明瞭に與り。祐基も打電す。既:

「二八日朝神戸直、上陸の検定、時間追づけ知り、左左」

午前の船上世界は雲煙あれ。日和の尼屋へ世界一といふ事。一時、船として日本アルゴス浦に入り、盒巻、鶴木、松田(鶴鳴唯徳別荘)子の漫遊を眺望するより。Salonにて見せる。兩人感動凝視し、或ひ口説きの旅と見ゆ。船で底。

今日一早國領士子といふに向し、對邊の船室に詰車を示し、子の攝影を許す。船室戸の手へ。

「山川雨露の空の上の雲かへく見ゆる日本より溢ゆる花り叶り」

五月二十三日(月)

天気陰暗、涼氣から来る。甚く海上吹き越え、浙江省より冲へいる。起、海水濁り、黃褐色の浙江水落引出現。楊子江は黄龍の龍淵かと思へどさうらす。何れ鐵生源の名うらしく、可謂承襲の一體らし。

午後船上の野事兵の腰懸の音を聞いて有蓋あり。午後蘇州(ルクセン)より蘇州船より、通商事情と題く。これより有蓋あり。又より漁業の動向を聞きべく漁者。夕食の船上の野事の陸草帽圓す。船の音を聞き、既て船のボートの音が相違す。追跡はカノコ船付船貨の百分の七を標準にして事務船と提携して運送カボート等を合流して貿易ことあり在らといふ。

走より船長より明次回の年輪田陸の数々と請ひとどす。やがて映画が始まる。上陸の眼光及び劇一篇あるが、別に面白くない。降つて船を就く。

五月二十四日(火)

朝起きて鳥羽は宿泊は已らず浦江に入る。やがて六時半映画は幕壁と破砕す。然れど大小の船舶、日中

ロシア民族と吉野、支那等

ロシアのSlav民族のOriginは詳しき。東西民族の中國がある事、かし。古代民族の匈奴族の侵入によつて東洋化し、種Byzantine文化の著しく廢れてシテ東洋化したる事、あつ。文字は草體字を基調とし、吉野は日本族ある事、華族の文法を東洋的の事多量あり。大書の鉛筆は嚴密で規則なし。例之は: I go to Tokyo すりに手を Tokyo go とて置きなし。姓高と Japanese と Japan との子の衝立。日本と太郎の三郎と太郎の四郎と四郎の子を併せたる事あり。

オランダの民族性を曰く。オランダ、オランダローバーと云。ユダヤ民族、アラビア等でオランダの民族(白族のアラビア族)オランダ族と呼ぶ。

正午時刻に、頃の日光の下、艦界の方は江に接して、正面衝ばし、すべて完全燃えみて一見戦艦の跡とは見えない。漁業の方は倉庫等立ち並びて静寂あるが、平安の趣あり。

朝食後見物に出立く。この時多數の支那人船に入集りて金の両横を豪奢も。俄の間には英貨一袋を日本貨二十円五十銭と換ふといふ。今まで向急、さき十七四月船を換へたるが、上海でこの相場は大方であるや不審あれども先づ英國船は有利されば、持ち合せばボンド貨を金郎日本貨と換へて大い儲かる。

見物團は英華人一族の外金郎日本人新合十人印第一の集合自衛會にて出立く。運物手は支那人、7名、明眼者は英人あり。總覺督も英人ある。日本人の總覺督は日本人の現地が望ましき水木がいる總覺督なし。車は先づ馬車で、馬を西子に向か難別町河口添ふてヒタ走り西子走る。南高架は主要道路みて流石に駆けはい、肩摩駆除の觀石、大戰争後神御には懸れず。車をして北子に向か裏通りに出れば、傍一面、古觀音の生々き冰燈も其屋を見ゆる。丁度京急の大赤門十二番の大廈火災の跡の如く。家といふ處は破壊のみ打撃され或は奇襲襲ひ或は焼失の如きの現状は毫端も見べからず。近所は経営所、四四月淀み出で、關北の鐵道駅は亞洲が最も富栄を極む。ニシキ京急通航處鐵道管理處の鋪打うち八月淀の大廈皆あり。數々の破壊され未だ生れ入りの跡跡と擇ひされ、一行は車を下りてそこへ直進の内事を聽矣す。ミラ中庭より直進三四百乃至七八百坪の穴あらは壁單廊の跡までこの筋めを日本字が廢に繋がりたりといふ。内部は火事當時の如き、電線や煙突や、混沌張りとして是の跡跡を知らず。

さて更に戰跡を獲據は既に肥したるが、今日は長距離の外に出つる許可証あきあめ、引き回すこじに我が海軍陸戰隊本部を控め、各軍部團体の元老等を觀望し、上海紳社を參拜し、その竟内より兵士等の多人相撲競争を見物して正午を終る。

今日戰跡に入るや日本軍の暴行する所を也。事を呼び留め土本「日本人人ともあるや、外人は居らざり」と聞ふ若し外人にとまへて入場を許されざるふ。

戰跡は生々き跡跡の換はる所。見えて肉山は残り頗る、肉山は残り頗る。何故か始末十九日と怪えら。手食飯食田東、有志の一一行ニルより市政局及び大講堂を見ゆ行かん。同行されやと云ふ。行方無き得たりやと反問されば「得たる者ありといふ」即ち飯田下り一行と莫々車を持てども乗らず。事務所を訪れられれば更に同ト質す。許可証は得られぬといふ。國子は船より引き送し。飯田より「直方市奉行所見物」と御園、御庄が並ぶその他の船と並ぶ船、日本人の店主と賣りが安泰なりと數へて自由行動を取らしめた。

事は船に在りて休息の暇、頃き書き著すて日々暮れ、夕食の卓は頗る豪勢たり。小野善氏も今日は午後は正装して、軍部の連へて便りて朝より出かけ居らう。その他の外出、外泊の人々あり。

夕食後ラヂオを聞き、終つて雜事と整理して寝ね寝く。

五月二十五日

午前九時半下船に再び古戰艦尼摩号出立れる。一行は予客と竹内氏及び多田夫人四人より自動車を供され、昨日見識したる重慶一個所を歴訪す。今日は竹内氏及び軍部の人より許可証を得たれば、行處にて自由に出入ることを得たり。

急づ第一、二軍械庫に向ふ。一望坦々たる深野、立派な斯年正壯なる跡跡を遺せしむる空空は御殿之外、領事館にて常次注文命令と日本由來の御用意。



市役所は平野の中央に立地する純正御殿
式堂であると字を読むが、入て見れば砲弾、爆弾の落
下で倒壊され、屋蓋の瓦チキを黒鐵、セメント面の白
堂内の柱柱も半ば破壊せらるが、内部も内
張子などに亀裂が発生され、壁面や天井板も粗
末なまま施工されて積み重ねて漆喰の被覆石と張
り下ろして裏張りとし、荷物、競走場用のアタリ^{アタリ}
のコロナート通りや吹き出窓は木骨ももとしてが震
え落としのインテリ振うち。予算は砲弾や爆弾の
威力の強大さを恐れ心してこれを書く。

東北方面は江津の競馬場に赴く、行くく伊藤
ターラや土蔵の廻を走り、田舎の樹林や瓦を吹き草
花を賞して競馬場の研究の背景、戦死者の墓
界を見たことをより江津城の御殿を横め見立かす
廟行頭へ出でて爆弾三重士の牌を謁す。

途中兵士の新作指揮官を見、これは島津洋蔵から
毛利元就のことを、道端の浮き舟を從事者たる浮
舟あつとぞ、大坂頭は路過きよとふうと車輪車を

通するを便あらざと日本より、訪問客見合せ、八百編
へ出て、船に登るとき十一時まる。今日の見度はほん
まの春景色、駕籠早め、こゝの色美しき花、櫻山並
木またうて欣甚じ。

上船より御案頭五名を加わ。外人六七名あり。
船は正午出港し、楊子江口にて高潮を度り越す。
道半にして尾を切る。夕食後 Radio を聴き遊ぶ約1h。
今日電報あり。

おはよう御肚痛を覗き承取歌いつ向看み、村井。
早朝出立候、無事中華橋到着し、早朝日未昇す中、
空港飛行し、長崎の船頭中座ひまぢや、仲間着有難う、
完矣。

四月二十一日

五月三十六日

会議準備事

五月二二日 三十日午前由行かれぬ。翌日行く

五月二三日 旅行費用決定せず午後山口を、京町へ
おけり、より早いと祇園行かれぬ。

今日八月二十九日、莫凍の荒島た伏波あり。船上客より乗上込めたる水上警察乗車隊、予の進行港一帯を周て暴れ去る。

二十九早朝より清州鹿と望む。予は褐着の色とつけて漫画便を渠ちみせはしく、城内一ノ橋同士、河内中佐の者の一筆を揮ふ。宇治源氏より南へ、其事情三題と題すと面白し。

夕刻船は次子と小御手守中佐走馬を船長室に招き、行引内侍意郎とニカラールを頬に清跡一段、走り立室の車と船と歌門と歌院と歌院。食後Raidを廻くと内閣臨港測量実進の報あり、翌ニ清州代に大内向と内閣の大臣と中佐を船にて慶祝を催れマリ、大臣が少くエラリヤと船の御里より既に平風疏感、御内田の大臣を出したらば今心にとはござべからず。

花園殿と基元謝る。一層一歌よしを被止水道へ、次子より也優し。

御内田御見入。

五月三十七日(四)

全體改進工事進む。

二十八日朝九時半傾上陸見込、盛太半分最後は漫画で完了す。水上警察の監査御内田は、行引の事務、殊の監査を聞かず旨を乞ふ。

正午開門を至る。日本の明媚ある風景を見て欣快樂むべからず。船は周防洋を通過し、日向(次)……お濱戸を退く。濱波濤を惹いて毒煙も古一奇觀ぶり。

既朝御戸看されば、荷物の整理は済チシ、税關へ更に搬運の便を圖りて課税されるべしと思ひもせず、戻返の取扱へあらず。隙に立てて税關吏に召被され、醜態を演するが如きは、畢竟

此河港を印すすものあれは、申告書ヨリ少しあ
詠うて明持品目を掲げて明日を行つことと
シ。夕食を添め休息の後、心静かに就寝し
つゝ、明朝久々ニて家探共ニ食ふ時、紙袋
さき想像シ、歡喜ニ満ちて夢を経か

五月二十八日(五)

旅船は神戸沖まで航して停止す。機
械故障、車と船客を調べ、冬より朝食を消
す付漫遊開業まで船客の荷物を点検す。予
り積荷はあり、申告書を示し、荷物を同様で
点検を持つ。申告書ニ署眞誠、ハンドバッパ等
を明記して置いたので、當然甚干謀税され
るものと覺悟して候ふと、度量は予の手提鞄
の中を一寸もぞいで見たりて、「一ヶ月手さ觸
れず全部の荷物れどベタベタと免稅」印
を捺して次へと行き去つた。この間僅か二
分三十秒。予は餘りの無造作に揃う盤いた。
積み物は、金田はコニタクスヌ西九十五円を
渡せられた。叶は全部免稅と云つた。度量は
金田は「何故コニタクスヌ西九十五円を買つた?」と
問はぬ、「これは東京直道具」と研究者感想
だから」と答へたが、「我らは多少減稅して
やる。度量はうは十割う税か」と言つた毛口にて
ある。金木田やコニタクスを咎めらば、「コレは
單部の税額ユ由と買つたのがおも免稅して
下され」と云ふことを言つた裏が、度量は「人
々の荷物ニラ通過させることは出来ぬ」と
ツケられ、「いや實は板ナ所貢品」と自狀
してニ西五十九円の税を取られらるど、アコム
の忠真剣を演じた様じらう。

已卯午時、及んでて、神屋室を取ると甲板
出て日丸ノテ旗は見えて、暮れ在チテ良久

水山、山の上を走る子と見、
海岸に着陸した。そこ内海島と被るが
下されたら、私は内海島をサロンへ向って
散歩を放課後を放課後、待つこと少頃九時
四十分頃、鐘を掛けた神島、鐵子、橋渡がサロ
ンへ入り来つた。手を振つて、お面と相手を
合せて坐り、顔事を喜んで合つた中より、神島は
速早にアラサトシと呼んで走り寄つて抱かれた。

予第一回大人船を下り、筑前を通過し、
自動車で通はして二の宮駅に至り、汽車にて
京都へ着く。アーチンボナルムを経て一段の後、
予は一行を渡して、直隸支那銀行にて
食事と休憩を終つた。次に銀座の御酒立茶室の
内室は清き流れて樹石の妙麗をこうした庭
を眺めながら、心よく手に有り、うなぎ、数々の
珍味、吉飯を打つて快適な、充實の休息にて、
南洋の歌を歌つてしまつた。お酒は機知こみ
りたる上に、水山、通産省を含む太政官と
開業ありとどくと聞ふ。一行は車を廻り、両方突と
ニ会員となり、予第一回おアルニ満足。

少し疲勞を感つたり、温泉にて寝て或
ち神島と遊んで、夜の歌を歌つて、歌を成
す。

夜歌をうかがつて快く歌歌す。

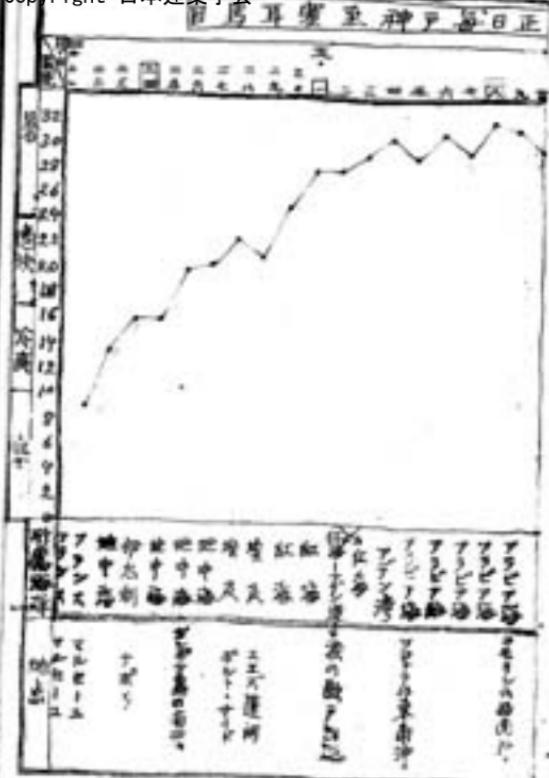
五月二十九日(日)
朝京都見物に出かけんとする行へ、大陸の船
一時向こ来る、少時散歩の後、船一ときかへて一
客アルを出て、先づ清水寺へ行き又戻りて、
懇々々と寺内を廻り、走りて清水坂にて數
々の寶物をおし、半右一は所用ありて大陸へ隔
るよつき紀念、一張者一張を買ひまよ。走りて家換
四人高台寺前を眞尋ヶ原へ、極楽社境内にて

茶店正林山、歓迎の酒をあびて、社前の
コーヒー店と併せ、四條通にて買物してホテルを
歸り、と休みます。

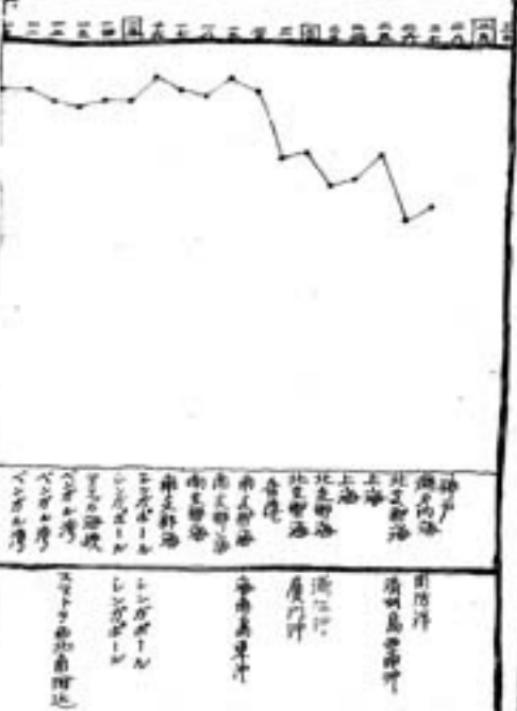
夕刻より出直して木屋町の桃花園で久松
支那料理を試み頗る愉快なり。史山より
おらくご教示して新米手本を通りぬけ、ホテル
を歸りて早く寝る朝です。

五月三十日(月)
今朝からめでて東京まで、早起不衛候ありひ
ステーションホテルを出て京都駅の駐車場、御堂口
付近へ向ける。お間ま御宿旅館、玉露御賓公司、
その他の駅みそを見送り來り、本宮建屋などと
みつき色々陳小高セリ。並外れありしは足立区現
在は北、草永庄同行すべしと云ふ。平がて該
車は発セり、一家團樂西日本くは車を飛ばさき西
行と思ひし、足立区は予の停を離れず、
予の不在中の事共、法勝寺修理手替ヲ長後
生の事、古材引合の事、奈良公園内道路の事、
古池寺修復の事、保倉源蔵御員の事、等々、
現き去り現き来りす時も予ヨ休憩の暇55
へす。彼の熱心は少くすべき也、云うとは個人に
神聖過敏なりと思はる。遂に定刻乗車駅
を過ぎる。定めてす内外の出迎ひりんあるべ
しと想ひしに、紫と相違して詫西西ナ名に
近き各方面の人々、押子五押子五エーブル角品
を贈る。予は一々丁寧に挨拶する程の慶祝の
意なり。群衆が予の元気玉の風貌を見て
歓呼を浴せたる裡を、いきり越けて駅を出て、
二度自動車と運びて祇園西片町へ自室
を離れる。丁度晴れ且皆晴れ。





季節气温表(北半球)



伏見丸子大木屋築定期來

四

(着)	(港名)	(発)
金武		四月十五日
四月十九日	江戸	十九日
-	馬耳寒	二十日
-	安田	廿二日
-	横須賀	廿八日
-	蘇士	廿九日
五月十日	新嘉坡	五月十四日
-	新嘉坡	十六日
-	金港	廿一日
-	吉摩	廿五日
-	神戸	廿九日
-	大坂	三十日
-	横浜	

四

道 番 台

馬頭橋 - 九里	一 ノ 所
下り - 成田工	-
天王寺 - 下り	三 段
吉輪寺 - 駒石坂	一 段
駒糸坂 - 布施	一 段
上り - 梅ノ井	一 段

(馬頭橋 - 九里 - 成田工)

里 程 表

1855-1864	1864-1874	1874-1884	1884-1894	1894-1904	1904-1914	1914-1924	1924-1934	1934-1944	1944-1954
2204 691 朝霞									
2645 1117 660 + 5' 1									
2731 8226 1125 1115 1102									
3125 2116 1665 1655 1645									
3728 3765 2445 2435 2425									
4164 2110 6625 6625	1745 9774	1721 9774	1707 9774	1693 9774	1679 9774	1665 9774	1651 9774	1637 9774	1623 9774
4628 9774 6625 6625	1721 9774	1707 9774	1693 9774	1679 9774	1665 9774	1651 9774	1637 9774	1623 9774	1609 9774
5103 9774 6625 6625	1707 9774	1693 9774	1679 9774	1665 9774	1651 9774	1637 9774	1623 9774	1609 9774	1595 9774
5575 1693 9774 6625	1693 9774	1679 9774	1665 9774	1651 9774	1637 9774	1623 9774	1609 9774	1595 9774	1581 9774
6049 1679 9774 6625	1679 9774	1665 9774	1651 9774	1637 9774	1623 9774	1609 9774	1595 9774	1581 9774	1567 9774
6523 1665 9774 6625	1665 9774	1651 9774	1637 9774	1623 9774	1609 9774	1595 9774	1581 9774	1567 9774	1553 9774
7000 1651 9774 6625	1651 9774	1637 9774	1623 9774	1609 9774	1595 9774	1581 9774	1567 9774	1553 9774	1539 9774
7475 1637 9774 6625	1637 9774	1623 9774	1609 9774	1595 9774	1581 9774	1567 9774	1553 9774	1539 9774	1525 9774
7950 1623 9774 6625	1623 9774	1609 9774	1595 9774	1581 9774	1567 9774	1553 9774	1539 9774	1525 9774	1511 9774
8424 1609 9774 6625	1609 9774	1595 9774	1581 9774	1567 9774	1553 9774	1539 9774	1525 9774	1511 9774	1507 9774
8898 1595 9774 6625	1595 9774	1581 9774	1567 9774	1553 9774	1539 9774	1525 9774	1511 9774	1507 9774	1503 9774
9372 1581 9774 6625	1581 9774	1567 9774	1553 9774	1539 9774	1525 9774	1511 9774	1507 9774	1503 9774	1500 9774

地名の號	山	峯	江	駿	門	術
京 都 都 村 邑 庄 莊 町 駿 鎮 口 臺 山 橋 津 門 術						

館屋の號	洞	裏	高	山	庄	廣	基	堂	軒	宇	室	分	酒	庵
開	闢	闢	闢	闢	闢	闢	闢	闢	闢	闢	闢	闢	闢	闢

後記

今回の路行は、桂下度六ヶ月半、その間一度も病を罹らず、嘔吐した胃腸も少しあが障あく、講義も終期以上の成績を収め、露乙の人々から恩を以て迎へられ、日出度く歸郷して見れば一家すべて無事甚才あり。此れ天佑と吾人あ、神仙り加護こそはんか、家様、親戚、知友、門牙等の予の趣事を祈り莫れども誠意の天祐を受けるのみ、予は感謝摺く覺え知らざ。加之、予は獨自行の處より多く観め取れども各地の風情風貌を見て感嘆するのみ少からず、實は織の上みゆ、修養の上みゆ、一段と鍛錬を加へたることを自覚し、欣快言ふべからざる有り。

「あ、路行によかった」と心中で歎息、大歎息の思ひを禁じ得ぬものがある。

子の路行の目的は三點ある。
 (1)は講義にて、これは走づ殆ど虚構が成功せり。四〇萬を得たりと算お
 (2)は飯田教育会。飯田市篠丘町にて彼の知識を開発すること、彼の小児らしき性格向上にてモ一歩し成人らしくすること、即ち教をして他日獨立獨歩の力を得てしむことと努力し、時々體を訓練し、體達し、激動し、叱咤をしたるが、その成績は虚構があらだらう。これは予の宿心より心配する所あり。四〇萬の成績とすべし
 は土産物の調達あり。各方面み賜ねば、土産物は一苦勞せり、しかり帰クて各方面的に配当すべき接觸して見れば、おほ甚だ不足ありし。四〇萬は其社の成績か。

支出預算	
收入	2 000 円
16 000 円	875文化協会より支給 外務省より支給
18 000 円	

支出預算	
2 000 円	初期費用 仕度料 (税込)
5 000	満洲材料運送費
2 8 000	伊名領内、草木、伯林等搬運費
5 000	伯林等在生活費
1 8 000	95乙各地搬出費
1 4 000	交際費及開拓費
3 000	伯林東京間搬運費 (伊太利空室)
1 5 000	準備費 (諸物資)
18 000 円	

支出預算	
宿泊(東北文化院) 諸経費	700 円
仕度料	1750 (1938.12.10 1939.1.20)
贈品 (各種料 680 円内)	120
満洲資料	450
往來旅費 (ヨーロッパの地図高賃料)	2300
独逸ニガサラ生活費 (8月~11月)	3500
在欧ニ満洲費 (小遣)	800
諸費用 (各種土産品、書籍、生活品等)	2200
地圖内地旅費	1200
謝儀及ニア旅費	1100
伯林→ナマリ街旅費	680
ナマリ東北間旅費	2600
雜費 (新幹線)	600
合計	18000

外務省作製予算(甲)	
1.	6000 円 日露文化協会より支給 内附 3000 伊太利 3000 ヨーロッパ
2.	16000 外務省補助
3.	7080.24 直輸 内訳 5080.24 伊太利 2000.00 金田一
合計	29080.24

同(甲)の内容	
伊太利	1. 3262.66—日露往復船料 2. 2777.46—船油料 3. 2000.00—種乙国内汽車費 4. 8000.00—歐州滞在費
金田一	1. 3262.66—日露往復船料 2. 2777.46—船油料 3. 2000.00—種乙国内汽車費 4. 5000.00—歐州滞在費
合計	29080.24

3. Voranzeige.

注文書 Auftrag - zeler

委托 = Auftrag

単価 = Einheitspreis

優遇 = Heruntergehen, ablassen
(im Preise)

割引 = Rabatt, Disconto

期間 = Frist, Zeit, Zeitdauer

工事 = Bauarbeit

竣工 = Vollendung.

施工 = Aufzähler

面倒 = Beschwerlich, Mühsam
um es vervollständigen, kostet
et viel Mühe.

荷造費 Packkosten

運賃 Transportkosten

報酬 Belohnung

取扱はなし Zertrennen

組立て Zusammensetzen

無いれば Zeichenmarke

仕様 Specification

見積 Schätzung

工賃 Kosten

手賃 Arbeitslohn

賃金室 Metallurgierung

設計 Entwurf

監督 Beaufsichtigung

相談会 Besprechen

請負人 Contractor,

契約 Vertrag

屋根 Schreiner, Tischler (Dü),

床板 Ausstattung (eines Raumes)

地形 Fundament

天井 Decke

床 Floorboards, 床板 viele

小屋組 Säckländer,

柱脚脚 Tischler

家具店 Schreiner

大工 Zimmermann

石工 Steinmeyer, Steinmäuer

蓋人 Kuli, Steinleiter, Tagelöhner

土工 Erdarbeiter

瓦工 Maurer

筋工 Metallarbeiter

瓦屋根 Schindeldach

瓦屋面 Fenster, Aussteicher

... 2 章 2.2.2 例文 下段

Bringen Sie ihm Tausend Grüns von mir
園芸 + 花 = Grünen Sie ihre Frau Genau!

- おま玉 + お = Glückliche Reise!

此處 + お = お = 非常 + お =

So freut mich sehr, Sie hier zu sehen

1. お = お = 奥仕事 überladen

= beschäftigt mit ...

迷惑 = Belastigung.

悔意 = お詫び apologetiv

= Entschuldigen Sie, dass ich Ihnen mit
einer Frage belästige.

直譯 = Fachblockland

Singapore の植物
園内の半齒鉗植物
の一例



Ceylon or Colombo

子持ける佛寺内の菩提
樹の葉二枚



- 首領の日本に対する見方があり、これに対して説いた者は、今より見れば「笑止す」とあり。
- 今は露乙は「西洋の日本からうんざりと云はる」と至りたるは今昔の歌謡である。
- 西洋諸國の現状は、
彼は既往の勢力、自信心を發揮し、おほ世界に進むことをあらう(先づ西國)が、従来既に處す。
何れも命や權はござらず、おほ餘命を保ちて死ぬは此をぞといふ也。伊は躍進の途上であつて元氣旺盛なる國力に之伴はず。
- ソ聯は實業の國々をさむ、内政治より少しと外へ躍進を極め難し。
- この前ニ至る露乙は新規海道より新開国を創建せんじ。手始めに横濱を據合せ、手を出シ、ウクライナの越境し、世界大戦の失敗を教訓として世界の霸を称せんとしてある。
- 露乙は旧文化と一緒にして舊文化を退けて、即ち新開国を進めてゐる。
- つい日本が明治維新以來、旧日本を廢棄して新日本を立てるに成功したとせり。
- 露乙は日本から引いて日本が新日本を大成し得たるかを研究し、之を標榜せんとするの志向。
- これ等ひが故に日本を知らんことを喜ぶる露乙、あり。
- 露乙が知らんことを点せ
○ 日本民族の優越なる性情は何を由て生じたるか
○ 日本國の、政治の如何、その民衆の心理と科學的力は何を由すか
○ 日本は國小、國力も少らず、國民の強き光

- 御高さがるは勿論だらう、顯著として遺存せし
特徴五事也。
- 日本文化の性質、モラル通り動機及の歴史
は如何、等々。
- 人を觀へ、日本民族は血の親類アリとし、
露乙民族の血を能く繼承する種族をへじと
して自分より距離とんどせらが、これが大民族也。
Germansも人は何より濃血たり。Judeのことを
黙過ちるゝは既標とはあらず。又民族とするて
これが種族を基盤化するものと考へられず。
- これまで日本は日本を限るも外で、帝國の形で擴張し得べからず。ヒットラーと
國體の記り上げて日本の國体を遂にと重みがわ
きは莫大な影響有る。
- うふ將軍とは日本民族の理を曉了することにて、純
権、風土、生活様式、技術、社會制度、歷史凡ての
総合結果が由るが故か、俄ニ之を標榜せん時は
不可避あり。
- やはりでは上記の具備的事実にて、一個一ヵ題を
離さず
- 帰するは露乙が西洋の見えたるんとするところは
不正確あり。獨逸日本を學ぶ時、其のの
眞相を察ふこととする。
- あれど我が曾と英米等を學ぶんとしたものが、
只の皮相の知識つゝは終りしと一派耳あり。
- 但し露乙民族はその民族的心理が日本の者
よりは劣らる所、あうて純素つゝ比の點が少く、
すやよく日本が長所取るを得て、ニニ等へ
がある。
- これ一部は正しき旨へて思ふ。併し之を由て
露乙が成功多さとは思へぬ、寧ろ失敗ゆけ
ることを覺ゆ。
- 由其一團の長野君は他國由て擴張され

- の二事より見て取れるべきものは眞
の長所み得ずして尺た表面的現感のこと。
⑦日本が先ずの長を模倣するに拘らず、物
を模倣し得ざうしが如く、能工はまた日本
の長を模倣せんとして何物をも模倣し
得ざらん。
⑧一圓の長短はその圓み取との長短みて定
め取ての長短が准す。
⑨鶴の脚の短きは鷺みて適し、鶴の脚の長
きは鷺みて足る。
⑩、鷺に若し漫ニ中脚を伸長し、鶴脚を短
めすれば可也。
⑪、近松みの戲曲の一卷は天下の眞理を達
成して餘蘊あし。可々。

⑪ 北欧文化の根柢

- ①北欧とは主として German 地を指す事で中古以
降を歴史とす。
② German の經濟は詳らか最近の宮殿の營造、
スカンジナヴィアは密接して東ヨーロッパ東方の西
洋すと云ひ、新舊若巴文化を有して魔術探り根
柢深く有せりといふ。その邊鄙相沿に森林せられて
各種動物類を有す。

◎ 建築人と宗教

- ① 建築人へアリスト教徒あるハ間欠ロアリ。
- ② 予ハキリスト教の真理を知ラシ、イギリス、Gothicチャーチ
地圖無上の對照として崇拜し之に取れバ精神を感し
死後天上。安住すと信すも宗教と思ふ。
- ③ 建築人へ只機械的ム之を信すオヤツアリ。
- ④ 自己の慾望の爲ニ之を信すル事アリ。
- ⑤ ルイは大自然を造り人間ニ之を手承として尊嚴を
つとめんと神示セキテ、彼等ハ大自然ニ對して有能
セガモのモアラズ。却て之を離不脱レッハ高ク。
何處ニ宗教ハ有ケン。
- ⑥ 神等ニ現物主義者アリ。自己奉仕者アリ。
- ⑦ 神等は自然の美を解ケズ。
- ⑧ 例之ハ神は山岳を世界に觀して之を征服せん
と言ふ。失敗リムハ必ず戦を以ひと言い、疲弊ヒ
んと言ふ。
- ⑨ 例之は被ホ一馬の頭顱の心のよく過激の情をし。
- ⑩ 例之は猿の人體の遺傳主シ。
- ⑪ 何處ニ宗教ハ有ケド。
- ⑫ 犬ハカリヤ(若シ被め實在の人ありケル)が世人セキリ
覺悟を矯正せんが為ニ歌ハセ説キシテ。世人ハ之を
自體本位ニ曲用して毫ハナ悟ラセモ莫ラム。
- ⑬ 音ヲヨコキ本人ニ宗教ハ有シ。キリスト教告白にて
は、便宜より過激場所として音楽ニ居る事多キ。
- ⑭ 猿の被事ハ到底度モベカラガモ無宗教の體人
たり。

◎ 欧米傳来、ア尾リナ

Copyright 日本建築学会

日本建築学会

copyright 日本建築学会

日本文化の紹介

野良図 欧米

西朝ヒゲを脱ぎてパンツ
金に拘るは事実足りぬ
野良が文明心豊かに成る

① 野良と文明

野良と文明の差は精神修養の大むと態度とみ在る。
人倫の重、道徳、礼貌、克己、仁義等の修養備へば
文明にて足りざるか野良か。

② 日本と歐米の比較

五つ心理と風習と思想を羅列し凡て日本と異なり
これが故に比較困難あり。日本が最も多くは西洋化
思想あり。歐米が正しかれば日本は邪あり。

③ 日本正しそうの可否は尚未確立せず、個人への日本
正しさとして皆ある時は技术と野者に著へざるを得ぬ。

④ 豪傑は無數、才媛を惜せぬ(台灣大抵的)

a. 横堀多喜一士氣

b. 桜痴らる御田玉氣

c. 鮎川端五郎金玉氣

d. 一郎 鮎川玉露玉氣

e. 一大自然玉枕玉氣

f. 一齋玉生玉氣

g. 一痴玉現

h. 一鶴味脫亡

i. 一豪爽心次古

j. 一和應父古

⑤ 歐米の富は不正の富より、文明と現交渉

⑥ 歐米の明滅文化は文明と現交渉

⑦ 歐米一金 = 0.

⑧ 今來世界の富の七割以上を有する大英と現交渉

⑨ 今後世界富の大半は飲食を有し英語、英資は世界統
治するも尤もと現交渉

⑩ 富貴、財産、権柄の千百種類、ヨリ尊厳にぞべきか

- ⑪ 日本の領土として保從すべからず。只國を富よりの
工、土、水、火、引揚各対害せんことす。終は實力より之
を掌握せざるべからず。

[獨乙と日本]

① 序言 ①. 子・お乙行の便り

- ②. お貴様は日程
- ③. おー印象 (尤も優美運は利く、足元も暗い)
- ④. おー向の聲を擇る (Stranger 誰と言ふ)

② 獨乙の日本觀

- ⑤. 日本経済時代
- ⑥. 日中注目時代
- ⑦. 日中研究時代
- ⑧. 現代の日本研究状態と日本認識現象

⑨ 日本研究の目的

- ⑨. 日本主義から
- ⑩. 学問上より
- ⑪. 文奇心から

⑫ 司教 Hitler 主義 (日本を擇むとする才幹)

- ⑫. 狂言 (聯盟観、萬能意識)
- ⑬. 國體創造・國民主義の國際主義
- ⑭. 古代行進と語言 (民族統一)
- ⑮. ヒットラー學派 (田程文化)
- ⑯. 之を對する思想
- ⑰. Ein Volk, ein Reich, ein Führer
- ⑱. 血の統治
 - ⑲. Jude 駆逐と虐待
 - ⑳. 實例。
 - ㉑. クリスト教の結束と影響

㉒ 独乙國立精神 (大体政治・文化・社會)

- ㉓. 一定美 (藝術)
- ㉔. 藩政
- ㉕. 実利主義
- ㉖. 十九の財する背向
- ㉗. の向こ後れ

① 建築

- ⑧. 建築、工藝家
- ⑨. 日本建築の歴史 (おうや)
- ⑩. 今昔の動向 (おこり)
- ⑪. 美意と非意
- ⑫. 少しも相談すべからず

③

- ⑬. どうべきする。
- ⑭. 併し日本へ送り来る機関を主に、
- ⑮. 日下樓はヨリ後が長を書く。

⑭ 国の歴史と日本書道

- ⑯. 国の書か相處
- ⑰. へ情私体の蓋
- ⑱. 漢行に墨すべき
- ⑲. 其自尊自愛あるのみ

忠節、氣儀、武勇、信義、俊秀、

(東)

Copyright 日本建築学会

渡獨記

下

昭和十三年正月廿二日